

山文連

第4号

M M

三 三

M

M

M

山口県高等学校文化連盟

高文連

第 4 号

# もくじ

あいさつ .....	1
山口県高等学校文化連盟各部門の報告 .....	2
第14回山口県高等学校文化祭の記録 .....	14
総合開会式 .....	15
(音楽関係 4 部門) .....	18
器楽・管弦楽部門 .....	19
合唱部門 .....	20
吹奏楽部門 .....	21
マーチングバンド・バトントワーリング部門 .....	23
(日本音楽・吟詠剣詩舞部門) .....	25
(囲碁部門) .....	27
(演劇部門) .....	28
(展示関係部門) .....	30
美術・工芸部門 .....	33
書道部門 .....	34
写真部門 .....	35
第16回全国高等学校総合文化祭の記録 .....	36
器楽・管弦楽部門 .....	40
合唱部門 .....	41
吹奏楽部門 .....	43
マーチングバンド・バトントワーリング部門 .....	45
日本音楽部門 .....	47
吟詠剣詩舞部門 .....	48
美術・工芸部門 .....	49
写真部門 .....	50
書道部門 .....	51
囲碁部門 .....	52
自主事業 .....	54
国際交流事業 .....	57

## 参考資料

第 7 回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧 .....	60
(部門別応募状況、入賞作品数一覧、山口県授賞作品一覧) .....	61
平成 4 年度山口県高等学校文化連盟〈事業報告〉 .....	62
平成 4 年度山口県高等学校文化連盟会計決算書 .....	63
平成 5 年度山口県高等学校文化連盟〈事業計画〉 .....	64
平成 5 年度山口県高等学校文化連盟会計予算書 .....	65
山口県高等学校文化連盟規約 .....	66
平成 4・5 年度山口県高等学校文化連盟役員一覧 .....	70
全国高文連の歌 .....	72



# ごあいさつ

山口県高等学校文化連盟

会長 石井秀和

山口県高等学校文化連盟は発足6年目を迎え、関係者の皆様方の御尽力を賜り、高文連の活動も確実に定着してまいりました。

平成4年度は、高文連にとりましては感性に満ちた躍動の年でした。“青春の心で開け 文化的扉”のテーマのもと、昨年6月18日徳山市で開催した第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式では、会場を埋めつくした高校生の熱気と感動の中で幕開けし、それ以来11月までに各部門が5会場で日頃の芸術文化活動の成果を十分に発表することができ、高校生をはじめ多くの県民の皆様方から激賞と賞賛のことばをいただきました。

続いて8月3日から沖縄県で開催された第16回全国高等学校総合文化祭には、本県から11部門21校268名の多勢の高校生が参加し、日頃の研鑽の成果を披露し各部門とも高い評価を得ました。ことに総合開会式では、アメリカ、シンガポール、マレーシア各国の高校生が参加し、芸術文化活動を通じて相互理解と友情の輪が広がるなど、活気溢れる青春の証しとして互いに、「心」の交流を深め合うことができた大会でした。

また、柳井高校3年弘津聖也君が写真部門で奨励賞。徳山高校3年三木京子さんが全国高文連囲碁大会女子個人戦A組準優勝、全国高校囲碁選手権大会女子個人戦準優勝を果すなどぎましい活躍ぶりでした。

さて、特筆すべきことは、昨年8月18日から1週間、「山口県・山東省友好協定締結10周年記念」事業として、県下の高校4校50名からなる吹奏楽団を編成し、山東省の济南・泰安の2市で記念演奏会を行い熱烈な歓迎を受け、山東省の音楽評論家から高校生としては高い評価を得ました。ことに印象深いことは、山東省の高中生との交歓会でした。山東省は漢族・ウイグル族・モンゴル族・朝鮮族など少数民族からなり、高・中学生が自分達民族の伝統的芸能文化をよく継承し、舞踊・歌などを披露するなど限られた時間でしたが感動の連続でした。やがて迎える21世紀は、豊かな心と創造のたくましさが求められており、国境や民族を超えた相互理解を図らなければならないことをあらためて痛感しました。

本年度の事業はすべて終了しました。ことに総合文化祭への参加、各部門の発表などを通して、県下の高校生が互いに知性や感性を磨き、友情を深め合うことができたのが大きな成果だと思います。これも日頃から献身的な御指導をいただきました諸先生方、さらに県教育委員会をはじめ関係機関の温い御支援の賜であります。

終りに、集録4号“高文連”的発刊に当り、原稿を執筆いただきました方々、高文連活動を御支援いただきました関係者の皆様方には、深甚なる敬意と謝意を表し発刊のごあいさついたします。

# 山口県高等学校文化連盟各部門の報告

## 器楽・管弦楽部門

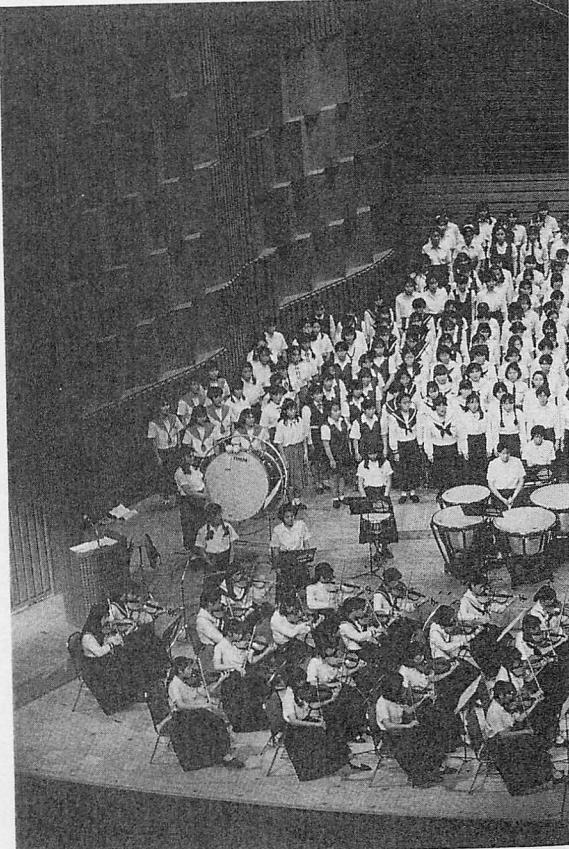
理事長 松永忠雄

(下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

- 1 平成4年度第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏として合唱部門との合同演奏  
6月19日(金) 徳山市文化会館  
曲目 “「タンホイザー」より大行進曲”  
“大地讃頌”  
指揮 椎木浩二(徳山高校)  
器楽・管弦楽部門より5校100名出演
- 2 平成4年度第14回山口県高等学校総合文化祭音楽部門発表会(第43回山口県高等学校連合音楽会)  
6月20、21日(土、日) 徳山市文化会館  
参加7校、各校によるギター、マンドリン、弦楽合奏、管弦楽などの演奏
- 3 平成4年度 山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部会  
12月16日(水) 下関南高等学校校長室  
部会長以下、出席者11名  
第12回器楽・管弦楽スプリングコンサート(山口大会)、県総文、全総文、役員改選、高文連表彰などについて協議

- 4 第12回山口県高等学校器楽・管弦楽スプリングコンサート  
3月25日(木) 山口市民会館  
参加8校、各校によるギター・マンドリン、弦楽合奏、管弦楽などの演奏
- 5 合同練習会  
3月25日(木) 山口市民会館  
参加5校、弦楽器パートによる合同練習  
(“タンホイザー”より大行進曲ほか)



## 合唱部門

理事長 中尾綾子

(宇部中央高等学校教諭)

### 平成4年度 県総文祭

総合開会式は徳山高校を主管校として盛大に開催された。本年度は従来の「ハレルヤ」にかわってワーグナーの「タンホイザー」より大行進曲を「大地讃頌」とともに演奏し管弦楽に合わせて、約400人の大合唱を披露した。ドイツ語の発音や高音域の歌い方などいろいろ危惧されたが、顧問の熱意と、高校生のすばらしいパワーによってなんとか切りぬけた。また当日、指揮者となった椎木先生が、多忙の中を各地区の合唱団の指導に時間をさいて下さったことを忘れる事はできない。次の日から行われた音

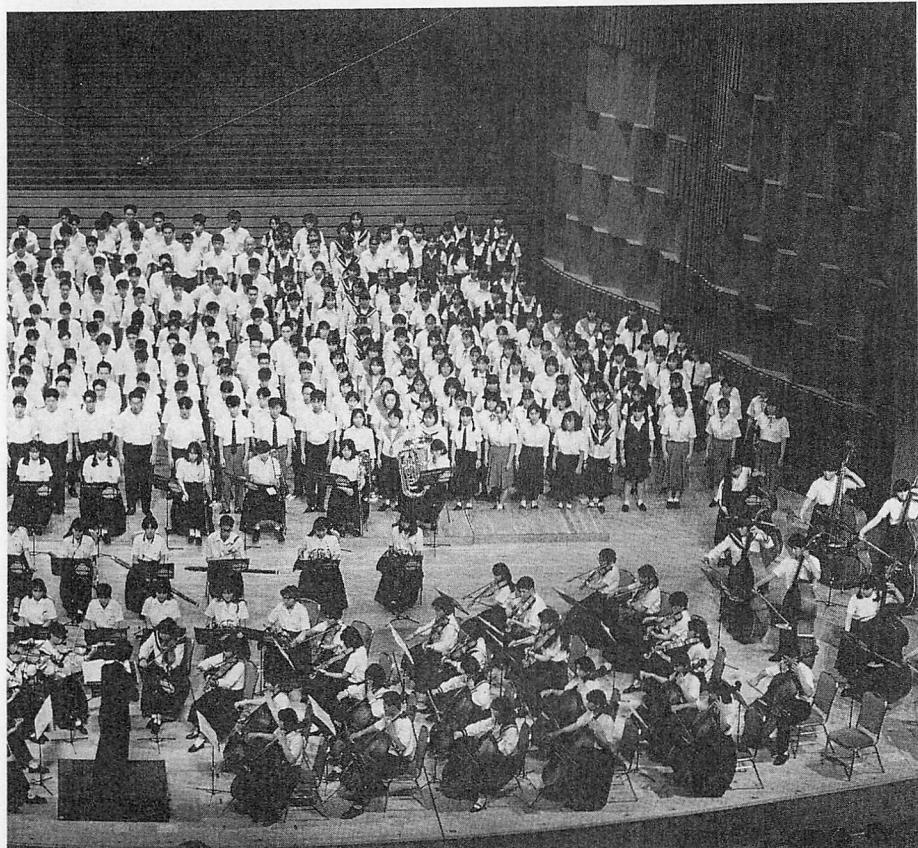
楽4部門の発表会には、9校309人の出演があった。

全総文祭（沖縄大会）は野田学園高校が出演した。台風と重なりいろいろ大変であったが、それによりいっそうチームワークもかたまつたと聞いている。全国レベルの演奏に接し、良い刺激になったと思う。来年度の埼玉大会には、萩高校が出演する予定である。

合唱講習会は12月23日、萩市で開催された。昨年にひきつづき鈴木捺香子先生を講師とし、生徒、指導者など約200人が集い、交流を深めるとともに、「海鳥の歌」から「オロロン鳥」「エ

トピリカ」などを合唱しながら、発声や表現の基礎的な指導を受けた。講師のユーモアを交じえた、それでいて内容の濃い指導で、有意義な会であった。

全体的にみて、他の部門に比べて参加校が少ないことを寂しく思うが、「歌はあらゆる音楽の基礎である」ということを心にきざみ、地味ではあるが少しでも輪が広がっていくことを念じて、活動していきたい。



第14回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式 徳山市文化会館

# 吹奏樂部門

理事長 重 広 昭 雄  
(防府高等学校)



第14回山口県高等学校  
総合文化祭 総合開会式  
(徳山地区高校合同吹奏楽団)



第14回山口県高等学校  
総合文化祭 音楽4部門発表会  
(下松高校)



— 国際交流事業 —  
山口県高等学校吹奏楽団  
中国山東省公演 泰安市

## マーチングバンド・バトントワーリング部門

理事長 花村 慈照

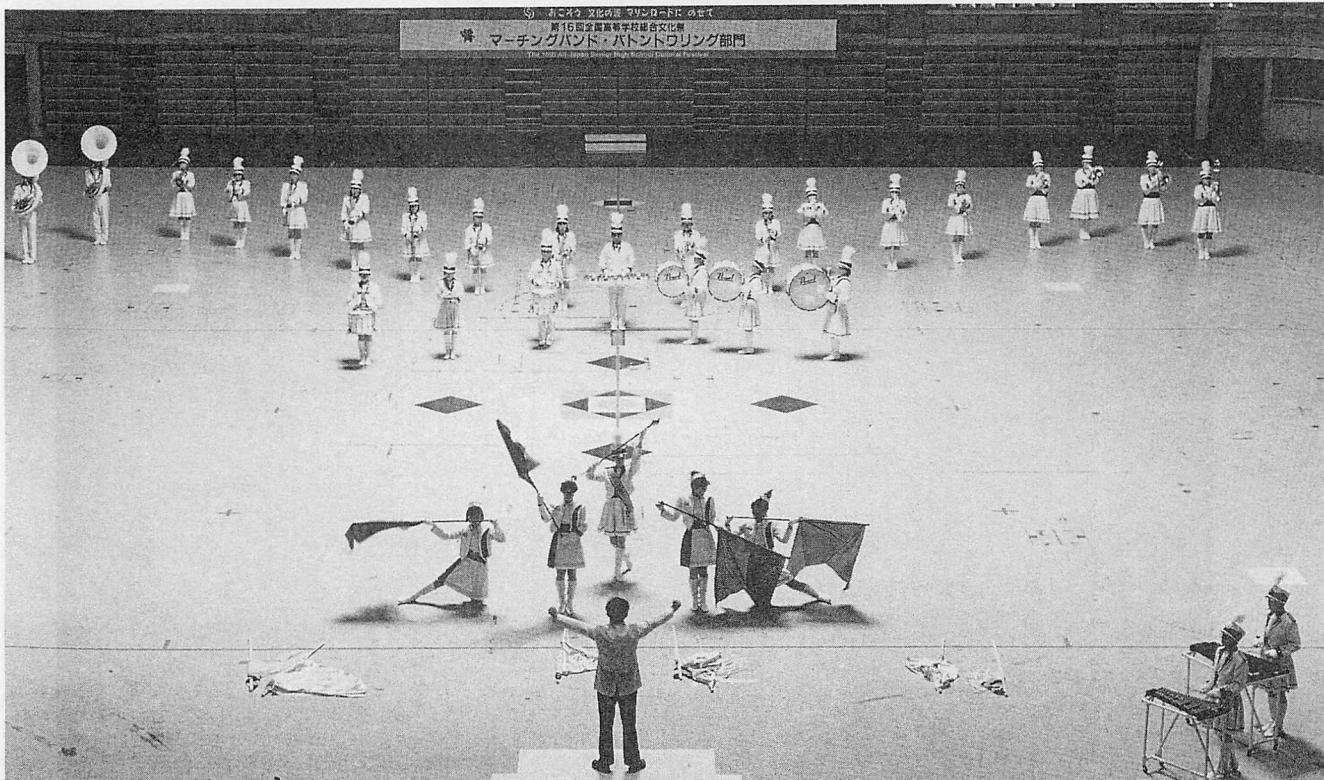
(宇部女子高等学校教諭)

本年度のマーチングバンド、バトントワーリング部門の活動状況をふりかえってみますと、毎年同部門に参加を呼びかけていますが、本年度もバンドの県立佐波高等学校、県立岩国工業高等学校の2校とバトントワーリングの早鞆高等学校、宇部女子高等学校、三田尻女子高等学校の3校あわせて5校でスタートしました。同部門は他の部門と比べて参加校が少ないと感じます。また同部門は他の部門と比べて大変派手ですが、経費の面や、充分な技術指導の面で参加が少ないのではないかと思っております。日頃の活動として、地元で地域社会に

密着した活動に参加され、すばらしい成果を上げています。同部門でバンドの2校は吹奏楽連盟に参加され、演奏会等に参加しており、バトンの3校は毎年6月に実施される、山口県高等学校総合文化祭に一同が集まり、一年間の演技の向上を競う場であり、また先徒達の交流の場であり有意義な文化祭であります。平成4年度の全国高等学校総合文化祭（沖縄大会）にはマーチングバンドで、県立佐波高等学校とバトントワーリングで三田尻女子高等学校も参加し、観客を魅了する演技が披露できました。来年度もぜひ同部門に多くの学校の参加をお願いします。

第16回全国高等学校総合文化祭（佐波高校）沖縄コンベンションセンター

おこづか 文化祭用 マリンロードにみせて  
第16回全国高等学校総合文化祭  
音楽・マーチングバンド・バトントワーリング部門



# 日本音楽部門

理事長 中野 靖子

(中村女子高等学校教諭)

本年度の日本音楽部門の活動状況を報告します。

## ◎総合開会式式典

総合開会式は徳山高等学校主管のもと、6月19日、徳山市文化会館で盛大に開催されました。日本音楽部門として、徳山高等学校琴部の皆さんが合奏し、花を添えました。

## ◎県総文について

第14回山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門は、近代日本の夜開けを告げ、多くの偉人を輩出した維新のふるさと萩市で、萩高等学校主管のもと、萩市民館大ホールで盛大に開催されました。毎年同じ学校の出場でしたが、各校とも堂々とした立派な演奏がありました。

## ◎全国高等学校総合文化祭について

本年度の全国高等学校総合文化祭は、8月5

日、沖縄市で開催され、山口県代表として、萩高等学校が「祭花二番」を合奏しました。少人数の参加ではありましたがあくまで上手に演奏してくれました。観客の拍手に胸が熱くもなりました。全国のレベルの高さに圧倒されましたが、大変良い経験をしたと思います。来年度は「創造の海 いま埼玉に現わる」をテーマに埼玉県で開催され、本県から岩国高等学校が出場予定になっております。

## ◎今後の課題

以上が本年度の活動の概要ですが、私達が古来から伝承された固有の文化が、すたれつつあることへの一抹の不安を覚えます。県下の高校生の皆さんで、この伝統文化を次代へ継承していくよう、多くの人に呼びかけることを希望します。



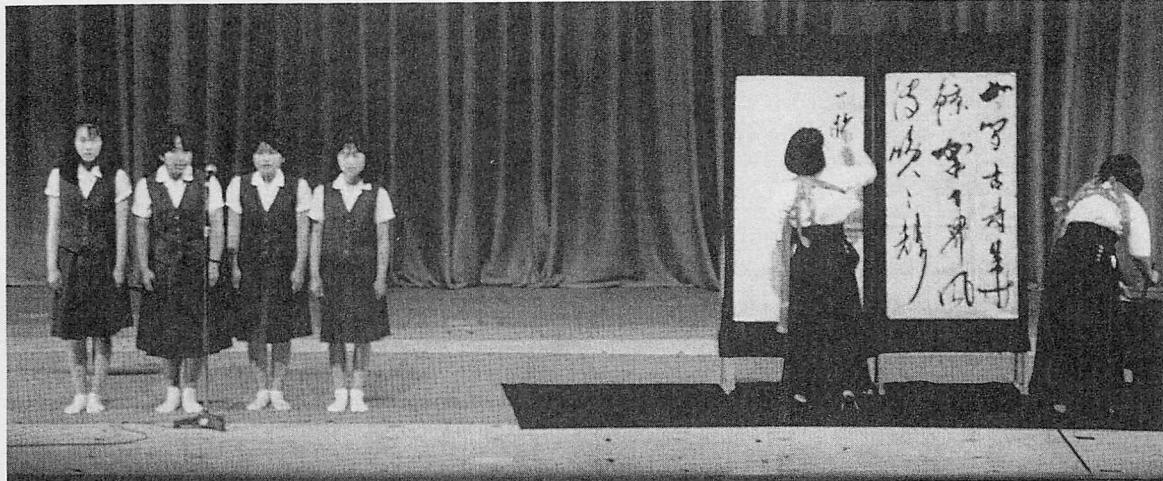
第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（徳山高校）

## 吟詠剣詩舞部門

理事長 中野雅行

(下関工業高等学校教諭)

第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式－書道吟－



本年度の吟詠剣詩舞部門の活動状況を、日を追ってふりかえってみたい。

まず、6月19日徳山市民館で開催された山口県高等学校総合文化祭の開幕式典において、書道吟「興元の晩鐘」を発表した。この詩は、元禄時代徳山藩の儒者宇都宮遜庵が藩主毛利元次の依頼によって作った松屋十八景詩の中の一つで、徳山の名刹興元寺を詠んだものである。書は徳山高の書道部員、吟は聖光高の吟詠部員がつとめた。どちらも立派な発表であった。

参考までに詩文を次に掲げる。

興元の晩鐘 宇都宮 遜庵

山間の古寺華鯨を架げ下界風は伝う晩晩の声  
いつしょ いわせよ かかげ かか はんばんのこゑ  
一杵存したり多少の功德 来り聞くは何の者  
ぞ 耳根 清なり

つづいて6月28日、本部門と日本音楽部門の合同発表大会が、萩高校を主管校として、萩市民館において開催された。ここでは聖光高、下関工高、中村女子高の3校合同で構成吟「西の京 山口」を発表した。今から約440年前の室町時代、大内氏によって西の京といわれるほどの

空前の繁栄をみせた山口の姿を、25分のスライド構成にまとめたものである。3校の息はぴったりと合って立派な発表であった。そしてこの構成吟を8月4日、沖縄県宜野湾市で開催された全国高等学校総合文化祭でも発表した。「おこそう文化の波 マリンロードにのせて」のメインテーマのもと、本土復帰20周年を記念して開催された大会である。吟詠剣詩舞部門には全国各県から85校が参加した。この部門に本県が派遣した生徒数は、聖光高2名、下関工高2名、中村女子高1名計5名の少人数ではあったが、気迫に満ちて堂々と見事な発表であった。

さらに8月11日、山口教育会館で開催された山口県教育会主催の「第4回山口県学校吟剣詩舞道大会」にも上記3校が参加し、コンクール部門高校生の部に、1位聖光高桑嶋裕子、3位聖光高柳原奈緒子、入賞下関工高大島信太郎、中村女子高瀬本美恵が入賞を果たした。2位は個人で参加した萩商高大賀弘美であった。

以上で本年度活動の概要を終わるが、本部門のさらなる発展を期待したい。

## 囲碁部門

理事長 伊藤秀男

(下関西高等学校教諭)

平成4年度、山口県高等学校文化連盟囲碁部門は次の3つの事業を行った。

①第14回山口県高等学校総合文化祭開会式典においての慶祝展示。6月19日(金)於徳山文化会館。事業内容は、

- 初心者コーナーで指導対局。
- 展示。高文連囲碁部門の写真。

平成2年度第2回山口県大会。

平成3年度第3回山口県大会。

平成3年度第4回全国大会。

- 囲碁の歴史。

- 囲碁のルール。

- 囲碁の楽しみ。

- 全国各地の高校囲碁部の活動紹介。

②第14回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第4回大会兼全国高文連囲碁部門第5回大会県予選。10月25日(日)於山口県立下関西高等学校。

この大会は段級位認定を先行し、その成績を勘案して全国大会代表選抜戦を行った。

ハンディ一戦である。9時30分より開会式、続いて対局に入り終了は17時であった。参加校は男子8校59名、女子6校21名、合計80名の参加で熱戦を繰り広げた。

成績結果は男子団体戦 優勝下関西高校。

準優勝徳山高校。第3位萩高校。

女子団体戦 優勝徳山工業高校。準優勝光丘高校。第3位厚狭高校。男子個人戦 A組 優勝 藤山純久(山口高校)。準優勝

赤崎拓法(萩高校)。B組 優勝 中村真言(下関西高校)。準優勝 原智彦(山口高校)。

女子個人戦 A組 三木京子(徳山高校)。

準優勝 杉尾直美(光丘高校)。B組 優勝



慶祝展示と指導対局 徳山文化会館

三木夕子(徳山工業高校)。準優勝 武田涼子(光丘高校)。

なお個人戦優勝の男女4名は、平成5年1月24日沖縄で行われる全国高等学校総合文化祭第5回囲碁大会に出場。

③平成4年度山口県高等学校文化連盟囲碁部門研修会。平成5年2月7日(日)於山口南総合センター。内容は、

午前中プロ棋士と高校教諭の対局をプロ棋士による大盤解説で行う。午後プロ棋士による直接多面対局指導を行う。

山田太喜三(日本棋院、地方棋士六段)、と渡辺堅一(日本棋院、地方棋士六段)の2人の先生に御指導を頂く。

①、③については囲碁部門として今年度はじめて取り組み、そのため多くの先生方にいろいろと指導やお手伝いを頂いた。特に①については徳山高校の川崎長門先生と生徒諸君に企画運営をして頂き感謝している。

③については7月に行った高文連囲碁大会の準備会で話題となり、11月末の理事会で正式に研修会を行うことに決定した。以後の準備に際しては、特に宇部鴻城高校の黒瀬孝泰先生に適切な御指導やプロの先生方との連絡等の御尽力を頂き大変感謝している。

また、②の大会についても3回にわたる準備会を持ち、高文連事務局長の斎藤真久先生をはじめ大会役員の皆さんとの御協力と御指導を頂き、大会を成功裏に終えることが出来た。

なお、近年この大会への参加校がやや固定化しつつある。先にも述べたようにこの大会では

ハンディー戦を行っており、段級位の認定状も出している。各高校にはクラブ活動（正課クラブ）で囲碁をたしなみながら、大会への参加には二の足を踏んでいる者も多いと思う。まだ棋力は弱くとも、囲碁に興味を持っている生徒や碁を打つことを楽しみにしている生徒諸君は、ぜひひどしどし参加してほしい。今後囲碁部門の大会がより多くの人たちに親しまれ、また一層の盛会となっていくことを期待したい。

来年度は事務局は萩高校に移り、高文連囲碁大会は平成5年10月24日（日）萩高校において行う予定である。

#### 各部門の報告

## 演劇部門

理事長 三藤真人

（厚狭高等学校教諭）

本年度の演劇部門の活動は、県総文祭の総合開会式をかわきりに、例年の地区大会・県大会そして中国大会と、県下各地に展開した。

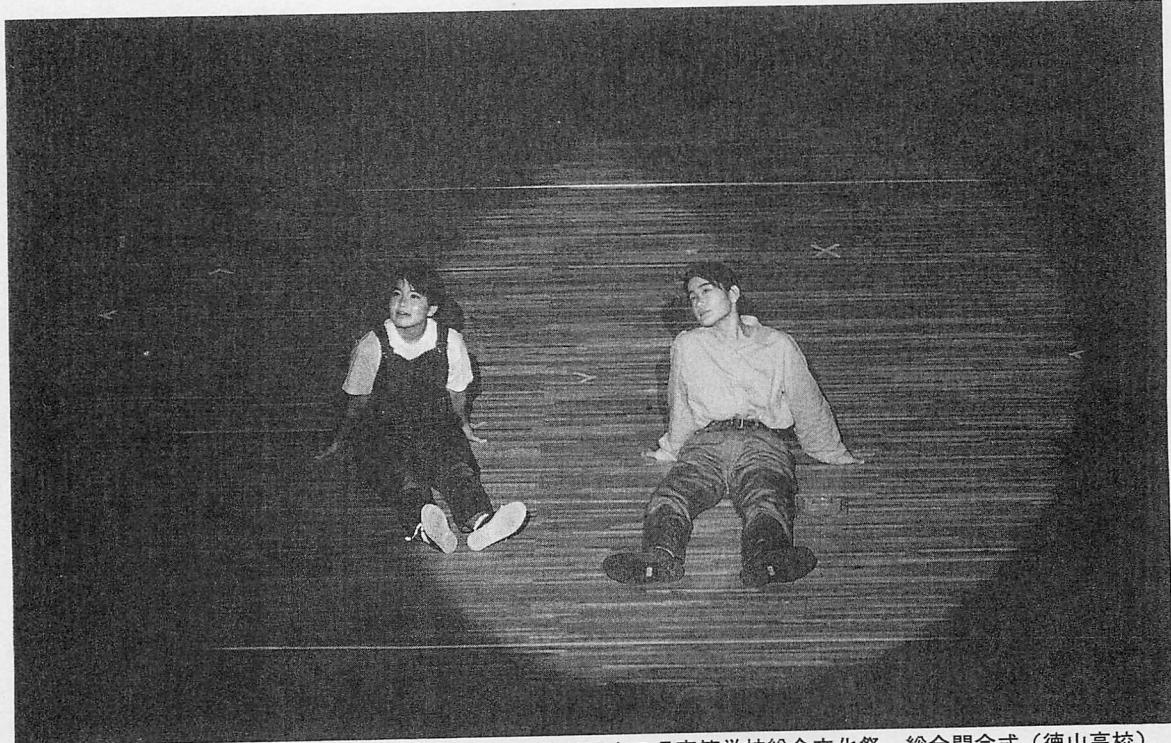
徳山市文化会館での徳山高校による「祭よ、今宵だけは哀しげに」の舞台は堂々たるものだった。出演者の演技も心も充分に作品にふさわしく磨かれていた。広い舞台空間の活かし方も工夫され、印象に残っている。

岩国、山防、宇部、下関の地区大会は、暑い暑い夏を飾ってくれたようである。今年度は特に各校が県大会への熱意を燃え上がらせての上演であった。参加校も昨年を上まわり32校。生徒および顧問の創作による新しい作品に楽しめる物があった。県下の高校演劇部の活動をこの地区大会にこそ全て結集したいものである。互いに観賞しあいながら、励ましあいながら、勉強しあいながら、他地区とも研鑽しあいながら、全県的に演劇部活動の輪が広がっていくことと、

そこからまた優れた舞台が年々新しく生み出されるようでありたい。

10月31日～11月1日、下関文化会館で開催した総文祭演劇部門の発表大会（県高校演劇大会）は、上述の地区大会で選ばれた7校の上演である。講師として、劇作家 町井陽子先生をお招きした。個々の作品については別記するが、コミカルなもの社会諷刺的なもの現代の生活に潜む様々な問題を取りあげたもの、種々の構想をもった発表は観る者を楽しませてくれた。

講師の熱誠あふれる講評がまた会場の反応をかきたてて舞台と観客と講師を一つに結び合わせたのは高校生の演劇大会らしい研修の一場であったようだ。町井先生の総評で、「正面切っての台詞はよくない。しかた話をしないで、あくまでも自然な会話を…。」とおっしゃっていたのが思い起こされる。演劇といっても演技といつても根本は日常の自然な人と人と、そしてその



第14回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式（徳山高校）

間に交わされるままの言葉でなければならない。また、その現実あるがままの言葉の中に劇の母胎になるものがあるということか。

照明も舞台装置もあまり凝りすぎないこと、脚本の選び方に神経を使うことなど、色々教わるところがあった。「芝居をカットすること！」このお言葉に、芝居を創ったり演らせてたりしている者としては…？。さて、この県大会を突破して中国大会への出場権を得たのは、下関南高校・岩陽高校・下関中央工業高校である。

中国大会は山口県の引受で、岩国地区の各校を中心に全県あげて協力した。11月21日～23日の岩国市民会館に5県から11校を集めての開催である。創作劇がその内8作と他を圧している。講師は永曾信夫先生（日本女子体育大学教授）。他県の上演舞台の装置道具の造りに非常に明るい、丁寧で、しかもさっぱりとした所を感じ

ることができた。

「ドラマは一つの行動として表現されるものが、理念に形を与えるものとして具象の背後に流れる思想のようなものが観る者に伝えられる。そのような深い想像力を舞台の上の現実表現の奥に蔵しているのがよい。」など、懇切なご助言は多く参会者に印象的に受け取られるものだった。生徒同志の交流会、顧問のなつかしい交流の中、リハーサルから緊張の3日間が充実とくつろぎの内に終了したようである。

山口県下での中国大会だったが、全国大会へは岡山県代表の児島高校の出場となった。

年度末3月22日をめざして宇部地区では合同講演（本年度の講習会）を企画し、昨年9月10日頃から準備を進めている。請御参集。

# 美術・工芸部門

理事長 師井俊夫

(山口高等学校教諭)

## 1. 県総合文化祭総合開会式

本年度は徳山高校主管のもと、6月19日に徳山市文化会館で開催された。展示部門は3階の展示室で発表が行われ、美術部門からは昨年度全国総文に出品された作品と徳山地区高校生の作品が展示された。どの作品も県内の優秀作品で訪れた高校生の目を大いに楽しませたのではないかと思う。ただ観客数が少なかったのが寂しいが、これは逆に美術の好きな生徒達にとってはじっくり鑑賞できたものと思う。

## 2. 全国高等学校総合文化祭展示部門

今年度は沖縄の那覇で、8月の4、5、6日に行われた。沖縄は日頃行く機会が少ないだけに、出品者にとって、夏の沖縄に行けるということは、大変魅力あるものだったと思う。沖縄の印象について、我々の行った那覇の街は昔とともに今は我々の住んでいる隣近所の街とあまり変わらないように感じた。しかし沖縄の人達の容貌や工芸作品からは、やはり本土とは違う魅惑的な異国情緒を覚える。美術部門の展示作品は全国からの代表作品だけあって、やはり見ごたえはある。一点一点の作品がよく描きこ

んであって高校生の作品らしい力強さを感じる。高校生の作品には、時に、少し背伸びをしそうな大人の作品の真似事がありがちなもののだが、さすが全国展ではそのような作品は見あたらぬ。作品に対する素直な姿勢が感じられ気持ちが良い。ただ、日頃の取り組みやすさから平面作品が多く、これからは立体作品にも大いにチャレンジすべきだと思う。

賞について書き添えると、全国総文の美術部門には優秀作品に対する賞は設けられていない。各県レベルでは優秀賞があるところもあるが、(ちなみに山口県では、平成4年の県総文から優秀賞を設けている) これには次の理由がある。一つには高校生の美術の作品は生徒一人一人の個性の表われであって、それに優劣は如何なものかという美術教育界の大きな流れと、又、県代表の作品に更に優劣をつける必要があろうかという2つの考え方である。これは今後の検討課題かも知れない。

県内の生徒の皆さんには、写真やビデオ等で紹介して全国総文の作品を知ってもらい、大いに励みにすると同時に芸術をより一層身近に親しんでもらいたい。



第14回山口県高等学校総合文化祭 文化祭展示3部門リハーサル 宇部ときわ湖水ホール

## 書道部門

理事長 荒瀬 宏  
(防府高等学校教諭)

### (県総文総合開会式について)

本年度は、すばらしい会場で、充実したものでした。生徒の手による進行に、やや不馴れな点もありましたが、展示部門の発表は、徳山地域の数校のご協力で、立派に出来ました。書道吟は昨年に引き続き、有富先生（徳山高）のご指導で、七言絶句が全紙2枚に展大書され、観客席からよく見えました。同じ作品は展示ロビーに公開され、雄大な書風に若さが溢れ、感動しました。

### (全総文沖縄大会に参加して)

香川・宇部西・厚狭・防府4校が出品しましたが、生徒の参加は2校、教師のみ参加1校、作品のみ送付1校でした。各高校における高文連活動への理解がまだ不足しているようです。しかし、沖縄観光は楽しいもので、食事まで皆一緒に、特大ステーキの味は格別でした。展示会場は大きい体育館でむし暑く、ゆったりしたスペースに大作が並び、特に沖縄県の頑張りには驚嘆しました。本県からの作品も、大きさでは負けませんでしたが、若さ、力強さの不足は反省させられました。講評会では講師が、各県1点は誉めておられましたが、何故、若人の学習姿勢に言及されぬのか……教師の姿勢についても厳しい注文がほしいと思いました。次年度以降、評価 = 賞の選定を出席参加教師全員で協議してみようという提案をしておきました。生徒の交流会は、やや参加人数が少ないのを除いては、楽しい一時であったようです。

### (県総文展示部門発表会について)

昨年に引き続き、宇部地域の皆さんのご努力で新しい建物『ときわ湖水ホール』に、多様な作品を多量に展示することが出来ました。日頃の

部活動の姿をありのままに発表しようと考えましたが、一部の識者から酷評されました。汚い、作品サイズが小さすぎる、老人会の展示……等聞くに耐えぬものでした。部会の意志は前述のごとく、作品サイズの自由な選択、1校4平方メートルの有効な壁面利用、漢字仮名まじりの書への取り組み……など新しい試みに挑戦することでした。競争ではなく、各校クラブの活動の公開、更に他校の姿を参考にして向上するという、本来の高文連活動への理解が大事です。次年度から、他の部門と同じように、全総文へ直結した審査を慎重にすることになりましたが、原点だけは忘れぬようにしたいものです。そこで、作品形式をより一層工夫し、作品の大小にかかわらず、若さ一杯の作品づくりを生徒とともに考えましょう。今回の展示で、極端に鑑賞者の少ないことが気がかりです。各校では年に一度、先生とともに出かけ、鑑賞し、対話し、他校の先生の意見を聞く機会を持ちたいものです。講評会とともに講演がありましたが、今年の講話はやや高尚で、高校生には不適だったようです。次年度から、生徒の交流会のような形式を研究し、生徒の主体的な運営を考えたいものです。

### (書道部門会議について)

12月4日に、15名の先生方で反省会をしました。以下、その折の決定事項を列記し、次年度も格段のご協力をお願い致します。

- ことしの県総文展示の中から、優秀作品15点を選び、全総文埼玉大会出品参加校を4校指定しました。 — 美祢・大津・高水・多々良
- 次年度から、県総文展示段階で全総文への出品指定を即決することになりました。審査は

各地区委員の合議で行います。よって、1、2年生の中から指名し、3年生の優秀作品は県内表彰のみとなります。

●各地区委員は下記のとおりです。岩国（岩見屋健）柳井（高山幸）徳山（有富由美）山防（古屋元子）宇部（岡正哉）下関（生田照代）理事長（荒瀬宏）

- 次年度県総文展示部門発表会は8月20、21、22日で山口市民館展示ホールが予定されています。手狭な上に、夏休み中の開催で、ご迷惑をおかけしますが、ご協力下さい。
- 高校教員書作展は、8月27、28、29日於山口市民会館です。高文連行事の一つですから、多くの先生方の出品をお願いします。

#### 各部門の報告

## 写真部門

理事長 藤川明徳

(柳井高等学校教諭)

#### 写真部の四季

##### 春

平成4年度の初仕事は徳山で開かれた総合開会式に過去上位入賞の作品の何点かを展示して皆さんに見てもらいました。

##### 夏

8月初旬、全国総文の沖縄大会へ、カメラを両手に参加しました。この大会で昨年に続き優秀賞に入り、山口県高校生写真部の高いレベルぶりを全国に誇示しました。この大会に参加した他部門の元気な姿、演出を見て、感激したり、名物の台風に会ったりで忙しい日々でした。

##### 秋

9月下旬、県下の写真部生徒、顧問が柳井へ集合し、技術の向上を目指して昨年に続き二科会友の浜本氏を講師に勉強会を開きました。

この会で、沖縄大会へ出席した美祢工の笹見君、小野田工の藤井君、柳井高の弘津君のスライドによる沖縄大会の報告があり、参加した生徒諸君は来年度は是非自分がと思ったことでしょう。

午後は柳井高写真部女生徒と柳井高英語講師ジェーミー・カーシー(USA)先生の美しいゆかた姿を白壁の町柳井をバックに写す、撮影

会に入りました。

##### 晩秋

さあ一、いよいよ来年の全国大会へ誰が出られるか競う展示会が宇部湖水ホールで開かれました。来年度は下記の5点が埼玉大会へ出展されることとなりました。

「重圧」 柳井高 三村貴則

「漁村」 徳山工高 藤田雄二

「散策」 小野田工高 中山剛

「ゴール前の光景」 美祢工高 山田哲也

今年度の作品を見て感想を述べますと、すばらしい高い技術で作られたものがある反面、雑に仕上げられているため入賞をのがしたものがあり、暗室技術に工夫をすることで上位入賞が簡単に出来るのにと思われるものが目立ちました。

最後に良い作品を作る要點をあげておきますので来年は是非、すばらしい作品を作ってください。

○高校生らしい着眼、発想。

○ピントはしっかりと。

○黒白の色を美しく。

○仕上げをていねいに。

今年、また展示会でお会いしましょう。

# 第14回山口県高等学校総合文化祭の記録

《大会テーマ》

“青春の心で開け  
文化の扉”

---

●総合開会式

6月19日(金)

徳山市文化会館

---

●音楽関係4部門

6月20日(土)~21日(日)

徳山市文化会館

- ・器楽・管弦楽部門
- ・合唱部門
- ・吹奏楽部門
- ・マーチングバンド  
バトントワーリング部門

---

●日本音楽・吟詠剣詩舞部門

6月28日(日)

萩市民館

- ・日本音楽部門
- ・吟詠・剣詩舞部門

---

●囲碁部門

10月25日(日)

下関西高等学校

---

●演劇部門

10月31日(土)~11月1日(日)

下関市文化会館

---

●展示関係3部門

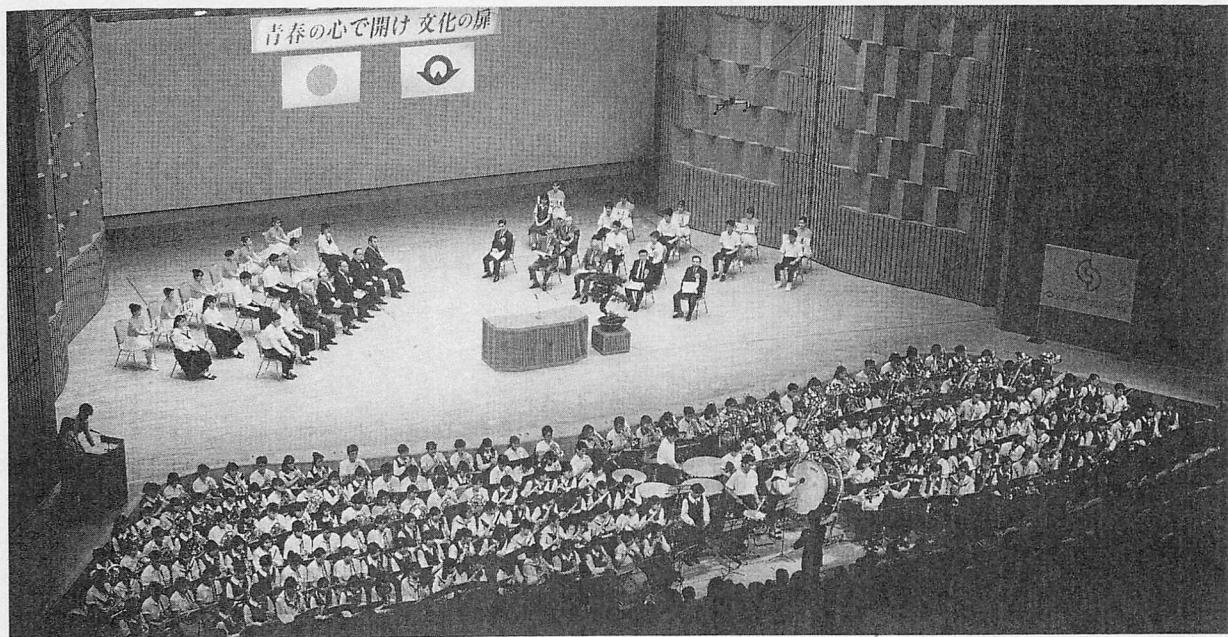
11月13日(金)~15日(日)

ときわ湖水ホール

- ・美術・工芸部門
- ・書道部門
- ・写真部門

# 総合開会式

於：徳山市文化会館



第14回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式 徳山市文化会館

主管校 藤井俊明 植木浩二  
(徳山高等学校教諭) (徳山高等学校教諭)

平成4年度、第14回山口県高等学校総合文化祭総合開会式並びに音楽4部門発表会・第43回山口県高等学校連合音楽会は6月19日(金)～6月21日(日)の3日間、徳山市文化会館にて盛大に行われました。

昨年度から、総合開会式は、単独の日時を設定することとなり、11部門すべてが参加することになりました。

関係諸機関による昨年度の反省から、本年度は、さらに充実した総合開会式になるよう種々の要望が出され、まず、平成3年度においては、昨年度の主管校(光高校)と8月、本校にて細部にわたって引き継ぎを行いました。それを受け、9月に校内準備委員会を発足し、主管校として大会運営基本方針を立てました。その第一は、生徒の主体による自主的運営・進行。第2に、会場費が昨年度より3倍以上かか

るため、諸経費の節減。第3に、会場の徳山市文化会館の充実した施設設備の活用、の3点を重点方針に掲げ、昨年度の反省事項を念頭に、企画・運営・予算・その他全般に渡って立案準備をしてまいりました。

平成4年度に入ってからは、各部門の理事長先生、徳山地区15校の関係の先生、校内準備委員の先生による大会実行委員会を組織し、それぞれの分野で献身的なご協力をいただきながら、準備推進して参りました。また、校内生徒実行委員会も組織し、大会当日の運営・進行について、日夜遅くまで検討を重ね、準備を進めてくれました。

大会は、会場の徳山市文化会館のステージが広い上、さらにオーケストラピットが自由自在に使用可能のため、立体的に進行ができました。540数名の奏者一同をステージに上げることもで

き、慶祝演奏では、豪快な演奏で大会を盛り上げることができました。照明・音響関係も本格的な設備が整っているため、演劇を始め式典、司会進行にも大変効果を上げることもできました。また、併設の展示会場には、展示部門から出品された50数点の優秀作品一点一点にスポットが充てられ、さらに一段と立派に写し出すこともできました。

総合開会式が無事大盛会の内に終えることが出来ましたことの最大の要因は、この3日間好天気に恵まれたこと。直接運営に当られた大会実行委員・高文連事務局の先生方、生徒実行委員の皆さんとの並み並みならぬご努力とご協力があつたこと。観客動員として徳山市内4高校の生徒・先生の皆さんの協力的参加があつたこと。会場に恵まれたこと等々であったことを決して忘れてはなりません。関係の諸先生・生徒の皆さんに心から感謝申し上げます。

(記 椎木)

#### ◇総合開会式式典

総合開会式は6月19日、「青春の心で開け文化の扉」をテーマにして、徳山商業高校・徳山工業高校・桜ヶ丘高校・徳山高校の1600名の生徒が出席した。式は徳山高校の演劇部の慶祝出演から始まった。「祭りよ、今宵だけは哀しげに」は純粹で程度の高い熱演がしばし観衆を魅了した。続いて、開会宣言、ファンファーレ、石井秀和山口県高文連会長、相本晃宏教育次長のごあいさつに続いて、小川徳山市長の歓迎のあいさつのあと徳山高校の山田俊介君が生徒を代表して「それぞれの分野において、一人一人が自分の限界に挑み…………」と歓迎のあいさつを述べ、囲碁の三木京子さんをはじめとする功労者に対する表彰、山口県高文連加盟11部門の紹介など、総合開会式の式典は無事終了し、引き続いて慶祝演奏に移りました。

(記 藤井)



正面玄関

受付風景

#### 総合開会式・ 音楽4部門発表会 会場 徳山市文化会館





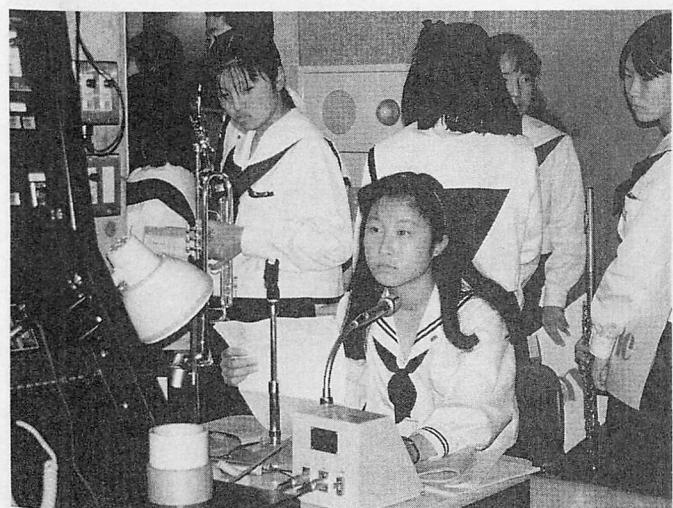
駐車場係

受付準備

アナウンス舞台裏

慶祝展示準備

ポスター作者  
池田麻美(徳山高校)



ポスター作者  
池田麻美さん(徳山高校)

## ◇慶祝演奏

慶祝演奏は、下記の通り、各部門がそれぞれ創意工夫をこらして、スケールの大きい素晴らしい演奏をしてくれました。観客の皆さんも深い感動の中に終始包まれました。

### 【日本音楽部門】

“日本のわらべ唄”

〔演奏〕徳山高等学校邦楽部

### 【書道・吟詠剣詩舞部門】

—書道吟— “興元の晩鐘”

〔出演〕徳山高等学校（書道）

聖光高等学校（吟詠）

### 【マーチングバンド・バトントワーリング部門】

“踊りあかそう”

〔演奏〕佐波高等学校（マーチング）

宇部女子高等学校（バトントワーリング）

早鞆高等学校（バトントワーリング）

三田尻女子高等学校（バトントワーリング）

### 【合唱・管弦楽部門】

“大地讃頌”

“「タンホイザー」より大行進”

〔演奏〕山口県高等学校合唱団

山口県高等学校管弦楽団

### 【吹奏楽部門】

“吹奏楽の為の「木挽き歌」より終曲”

“メモリーズ・オブ・ユー”

“草原情歌”

〔演奏〕中国山東省派遣山口県高等学校吹奏楽団

“エルザの大聖堂への入場”

〔演奏〕徳山地区高等学校合同吹奏楽団

※慶祝演奏合同編成出演校

### ◎山口県高等学校合唱団

安下庄、岩国、下松、徳山、防府、宇部、  
宇部中央、豊浦、長府、萩、野田学園、香  
川学園 各高等学校415名

### ◎山口県高等学校管弦楽団

下関南、下関第一、山口中央、柳井、防府

各高等学校125名

### ◎中国山東省派遣山口県高等学校吹奏楽団

下松、防府、防府西、下関商 各高等学校  
50名

### ◎徳山地区高等学校合同吹奏楽団

徳山、徳山工、徳山商、桜ヶ丘、徳山北、  
鹿野、新南陽、南陽工、華陵、光丘、熊毛  
北 各高等学校240名

## ◇慶祝展示

下記の高校から優秀な作品50数点が、併設の展示会場で展示され、作品それぞれに各種のスポットがあてられ、より素晴らしい写し出されました。鑑賞された皆さんからも絶賛の評をいただきました。

### 【美術・工芸部門】

〔出品校〕大嶺 柳井 萩工 西京 宇部女  
子 厚狭 徳山 桜ヶ丘 山口  
山口中央 各高等学校

### 【書道部門】

〔出品校〕宇部中央 野田学園 山口中央  
徳山北 徳山 徳山商 新南陽  
桜ヶ丘 各高等学校

### 【写真部門】

〔出品校〕岩陽 岩国工 柳井 田布施工  
三田尻女子 宇部 小野田工 美  
祢工 徳山 南陽工 各高等学校

### 【囲碁部門】

〔出品校〕下関西 徳山工 徳山 各高等学  
校

(記 椎木)

# 音楽関係 4 部門発表会

## 器 楽・管 弦 楽 部 門

会場・徳山市文化会館

理事長 松 永 忠 雄

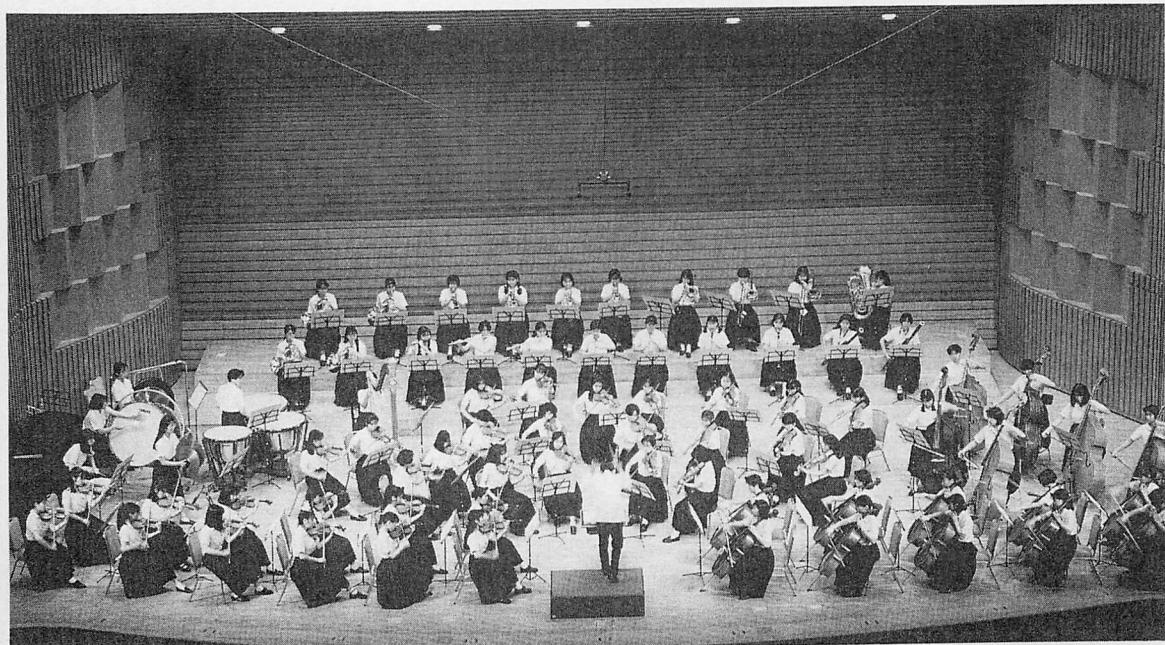
(下関南高等学校教諭)

平成4年度第14回山口県高等学校総合文化祭の音楽部門発表会は6月20日(土)、21日(日)の両日、徳山市文化会館において例年の如く、高文連各部門のトップを切って開催されました。また、その前日の19日(金)には、総合開会式が満員の聴衆を集め盛大に行われました。

器楽・管弦楽部門でも例年と同じく、合唱部門と合同で慶祝演奏に参加しました。今年度は徳山市文化会館のステージ(オーケストラ・ピット付き)が広く大編成のオーケストラを組織することができました。演奏曲目も十数年続いた“ハレルヤ”から“タンホイザー大行進曲”に変え、例年の“大地讃頌”と2曲を演奏しま

した。特に「タンホイザー」は椎木先生(徳山高)の躍动感溢れる指揮のもとで、ステージ左右に位置したトランペット6人づつ(柳井高・防府高)の輝かしいファンファーレ、ワーグナー独特の重厚な響き、コーラスとオーケストラの一体感となった終盤など、開幕式典にふさわしい音楽とその演奏で聴衆に深い感銘を与えた。

さて、2日間にわたって開催された音楽部門発表会の器楽・管弦楽部門には、今年度もオーケストラ4校、ギター・マンドリン合奏2校、弦楽合奏1校の出演があり、多数の参加のあった吹奏楽部門(50数校)に混じって、一服の清



第14回山口県高等学校総合文化祭 一器楽・管弦楽-(下関南高校)

涼剤ともいえる演奏を披露しました。各校ともに、弦楽器独特の艶やかで、柔らかい音色を備えた立派な演奏で、大会を大いに盛り上げました。

管弦楽は技術や編成、あるいはその普及など見るに、一部を除いて「まだまだ」という現状があります。また、ギター、マンドリンなども一般的には愛好されて普及されているように思われますが、本格的な合奏となると、これまた決して十分とはいえません。

全国の高校生の中で「ベートーヴェンの運命は聴いたことがある」と答える生徒は多いでしょう。が「オーケストラの中に入って演奏した」という者は稀と思います。生徒は、実際の演奏に参加することで、より深い、眞の感動を得る

のではないでしょうか。吹奏楽全盛の今日、音楽的にさらに一段と優れた合奏態である管弦楽活動を行うことは、より高く、より芸術的な感性を伸ばし、さらには集団の中で自己を生かす能力を養うことになり、心情豊かな社会の一員となるのではないでしょうか。

ともあれ現在、山口県内で部活動としてオーケストラを組織している高校は4校。全国的にみても少ないと思われます。「高校レベルでは技術的にも経済的にも無理だ」という声もありますが、ハイレベルな吹奏楽活動が実践されている今日、出来ないことはありません。山口県にも立派なスクールオーケストラが誕生することを望みます。

## 合唱部門

会場・徳山市文化会館



第14回山口県高等学校総合文化祭 一合唱一 (宇部高校)



(萩高校)

# 吹奏楽部門

会場・徳山市文化会館

椎木浩二

(徳山高等学校教諭)

第14回山口県高等学校総合文化祭の総合開会式並びに音楽4部門発表会は6月19日(金)、20日(土)、21日(日)の3日間、徳山市文化会館で開催されました。

## ◎総合開会式（6月19日）

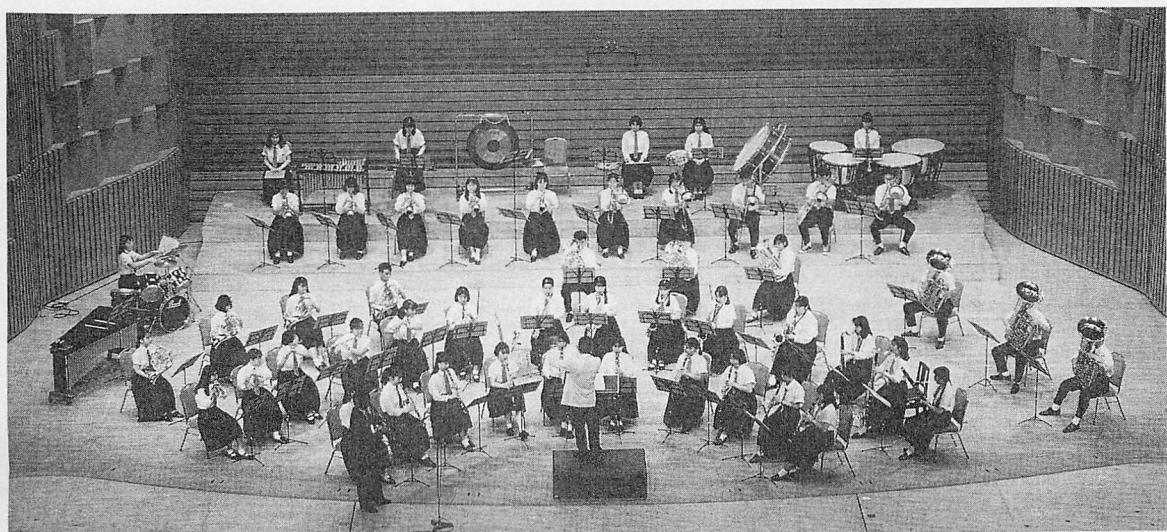
吹奏楽部門からの総合開会式には、開催地区徳山地区高等学校合同吹奏楽団と、本年度山口県中国山東省友好協定締結10周年の記念事業として、8月下旬、山東省に派遣される中国山東省派遣山口県高等学校吹奏楽団が参加いたしました。

吹奏楽部門として総合開会式への参加の方は、地元開催地区的吹奏楽の一層の向上発展と、大編成組織による重厚な且つ高度な音楽表現の体験を期することを基本姿勢として、式典、慶祝演奏等に参加いたしております。

この度の徳山地区高等学校合同吹奏楽団の組織にあたっては、前年度3月より、主管校・徳山高校の音頭で徳山地区全15校の音楽関係の先

生方と編成のあり方、選曲、練習方法、役割分担等々詳細に渡って協議や準備をして参りました。平成4年度に入り、新入部員も多数入部した状況の中で、華陵高校の和田先生、新南陽高校の北村先生をチーフに本格的に練習をしてまいりました。最終的に11校240数名の大編成となり、練習会場、練習方法、指導方法、パート分け等には大変苦心いたしました。参加校顧問の先生方の細部にわたり懇切丁寧な指導と献身的なご協力のお陰で、計3回の充実した練習をすることが出来ました。また、徳山地区は地理的に広範囲なため、合同練習においては生徒の輸送、楽器の運搬等に多額の費用がかかり、参加各校に相当額のご負担をおかけしてしまいました。

一方、下松高校・防府高校・防府西高校・下関商業高校4校による50名編成の中国山東省派遣山口県高等学校吹奏楽団は、8月下旬実施の交歓演奏会に向けて、大規模な企画・準備と練習計画が立てられ、数回にかけて合同練習が行



第14回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式（中国山東省派遣 山口県高等学校吹奏楽団）

われました。今回の総合開会式には、その一部をご披露していただくことで、早期に演奏曲の完成に大変苦慮されたことだと思います。

総合開会式における吹奏楽部門の演奏曲目等の内容を記しておきます。

【演奏】徳山地区高等学校合同吹奏楽団

◇式典「ファンファーレ」

式典「高文連の歌」

指揮 近間 弘子

◇エルザの大聖堂への入場

全員合唱「みんなのふるさと」

指揮 和田 道明

【演奏】中国山東省派遣山口県高等学校吹奏樂団

◇吹奏楽の為の「木挽き歌」より終

曲 指揮 重廣 昭雄

◇メモリーズ・オブ・ユー

ソロ 矢田部一俊

指揮 中村 芳喜

◇草原情歌

指揮 中井 勝

#### ◎音楽4部門発表会（6月20日～21日）

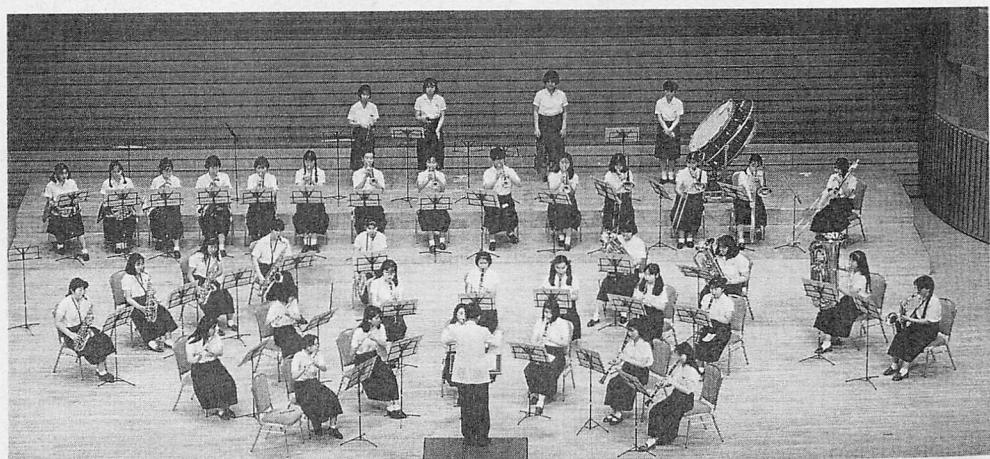
2日間にわたって開催された音楽4部門発表会において吹奏楽部門は、参加校は53校、出演者数 2,290名の多くの部員たちが参加してくれました。4部門中最大の出場校数で、どの学校も迫力のある演奏で観客に深い感動を与えてくれました。

また、バトン・トワーリング部門の発表に友情出演として、北村信先生指揮による徳山地区高等学校合同吹奏楽団250名がオーケストラピットに入り重厚な力強い演奏を披露してくれました。



第14回山口県高等  
総合文化祭音楽4  
発表会

(宇部高校)



(厚狭高校)

# マーチングバンド・バトントワーリング部門

会場・徳山市文化会館

理事長 花村慈照

(宇部女子高等学校教諭)



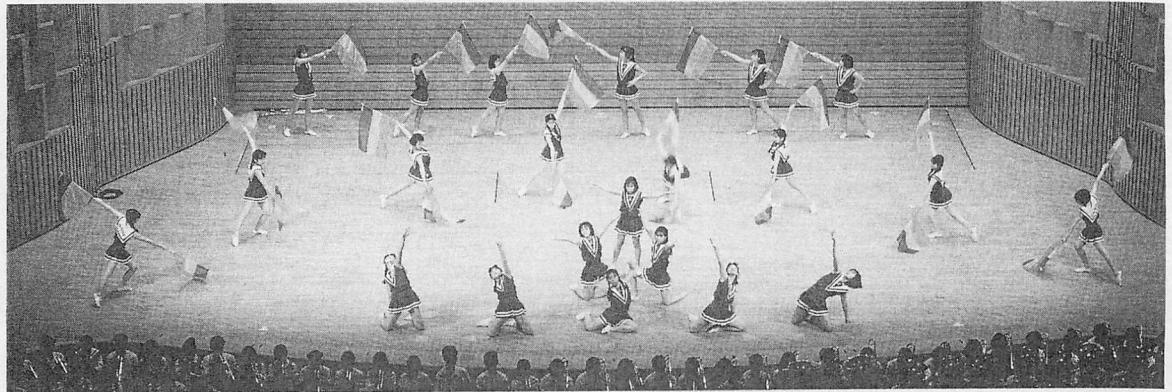
第14回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式 慶祝演奏と演技

今年度の山口県高等学校総合文化祭マーチングバンド・バトントワーリング部門は6月18日(金)総合開会式の慶祝演奏で、佐波高校のマーチングバンドの演奏で早鞆高校、宇部女子高校、三田尻女子高校の3校の合同のバトントワーリングの演技で『踊りあかそう』の曲にのって、観客席の間で演技をしました。本番当日に4校が初めて集まり、数回の練習で本番となりましたので、大変でしたが、すばらしい演奏、演技でした。2日目の6月19日(土)は音楽部門の発表会においては、地元高校生の合同バンドの演奏で演技をするため、迫力がありました。早鞆高校の「トゥルース」、三田尻女子高校の「メイム」、宇部女子高校の「カリフォルニアシャワー」であり、佐波高校のステージドリルは「Fresh. Winds' 92」の曲に乗ってすばらしい演奏、演技でした。

県総合文化祭に参加して

早鞆高校 水江真理佳

私達3年生にとって今年の総合文化祭は最後の年として全力投球でがんばりました。1年生の時の岩国市で、2年生の時の光市での発表は、いずれも思い出の多いものでしたが、今年は最上級生としての責任があり、1年ごとに進歩した作品を発表したい気持でいっぱいでした。曲は「トゥルース」で今までとはちがった。テンポの早い、のりのよい曲でした。この曲のイメージを生かして、力強さとスピードを現代感覚を盛って表現しました。思いきり演技し終った時の涙は、うれしさと、バトンを落とした悔しさと、でもそれは、大きな大きな感激の涙でした。オーケストラ・ボックスで、徳山地区の合同バンドの200人位の皆さんで演奏していただき、すごい迫力でした。このような生演奏で踊るこ



とが出来るのも、県総文の魅力です。合同バンドの方々に心から感謝いたします。県総文祭は終り、私達は、日頃の練習の大切さをつくづくと胸にきざみ、ひとまわり大きく成長したように思います。

#### 県総合文化祭に参加して

宇部女子高校 川崎美由紀

私達、宇部女子高校バトン部は徳山市文化会館で行なわれました県総文に参加しました。今年は昨年に比べて会場も広く、観客も多かったので大変緊張しました。初日は4校合同でステージと観客席に別かれて「ポンポン」で「踊りあかそう」の曲で演技をしました。2日目は各学校別にステージで演技を披露しました。私達は「カリフォルニアシャワー」の曲に乗って演技をしました。初日の諸行事の終了後明日の演技のリハーサルを行いました。本番では失敗もいく

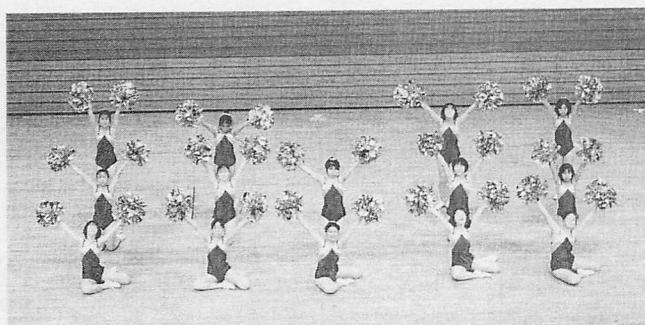
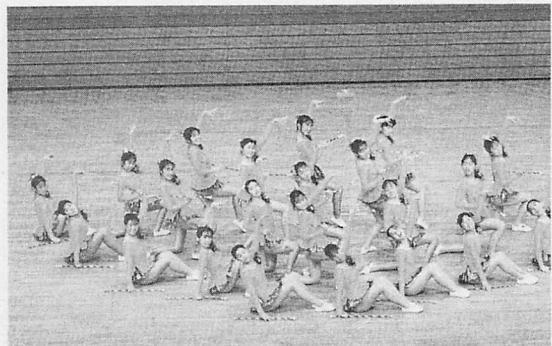
演技を多くの人々に披露出来る事を楽しみにしています。

#### 徳山大会を終えて

三田尻女子高校キャプテン

貞政 五月

毎回とても楽しみにしている、4校合同のオープニング、華やかな音楽とポンポン演技、そして私達のスマイルで幕があがりました。私達3年生にとっては、最後の演技、5月からビデオを頼りに流した汗も、今は、感動の涙。そし



つかありましたが、部員全員が精一杯演技をし、ステージの上で改めて部員が一丸となれた様な気がします。大きなステージで演技をする事は大変ですが、終った後の感動は今でも忘れません。来年は新メンバーで今年以上にすばらしい

て2日目、いよいよステージ演技。本校は、毎回同じ衣装ですが、私達の気持ちはいつもフレッシュ。アレンジした衣装に心をはずませ、そして生演奏の音楽パワーにだかれて、幸せと、緊張の数分間を味わいました。そして、会場がわれんばかりの大拍手、ユニークなインタビュー。そうです、青春のステップを踏み終えた歓びをかみしめながら、私達は、また一つ、大きな心の宝物ができたことを確信しました。この日の感動は、一生忘れる事はないでしょう。ありがとうございました。

# 日本音楽・吟詠剣詩舞部門発表会

会場・萩市民館

主管校 目 浩子  
(萩高等学校教諭)

本年度の山口県高等学校総合文化祭日本音楽部門は吟詠剣詩舞部門と共に、萩市民館を会場として開催されました。

本校は主管校としてお世話をさせていただきましたが、それまで準備をして来られた箏曲部顧問の田中尚子先生（現浅原尚子先生・防府商高）が転任され、思いもかけない素人が顧問をお引き受けすることとなりました。弱輩である上に琴を触ったこともないという有様で、まさに右も左もわからぬ中を、なんとか6月28日の開催にこぎつけることができましたのは、中野靖子先生（中村女高）、辛嶋茂樹先生（下関工高）をはじめとする諸先生方より御指導をいただきましたおかげであり、紙面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。殊に両先生には、1学期の最もお忙しい時期に何度も来萩いただき、誠にありがとうございました。

また、校内でも校長先生をはじめ諸先生方にずいぶんと無理を申し上げ、御迷惑をおかけし

ました。顧問としても一人では心もとなく、本来は合唱部の顧問でいらっしゃる中川義弘先生の御力を借りし、また専門的な事がらは、日頃演奏指導をしていただいている福田・師井両先生に大変なお骨折りをいただきまして、ようやく大会準備を進めることができました。重ねて皆様に御礼申し上げます。

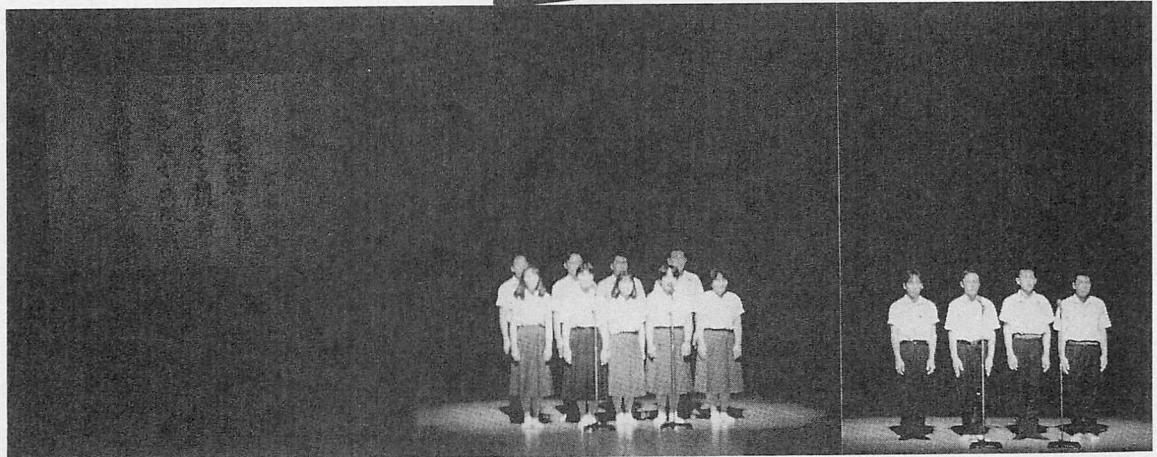
さて、当日は初夏の日差しの中、防府高校による「春の海」の演奏を皮切りに、計17校が発表する大会となりました。門外漢の感想ではありますか、どの学校も一所懸命で、すばらしいものだったと思います。ことに、聾学校の「陶ヶ岳太鼓」は、その勇ましい太鼓の音が場外まで響きわたり聴く者の胸を打ちました。

最後に、不備な点もございましたが、なんとか無事に終了できまして、関係の皆様方の御協力に、心より感謝致します。ほんとうに、ありがとうございました。



会場の萩市民館

第14回山口県高等学校総合文化祭  
日本音楽・吟詠・剣詩舞部門



# 囲碁部門

会場・下関西高等学校

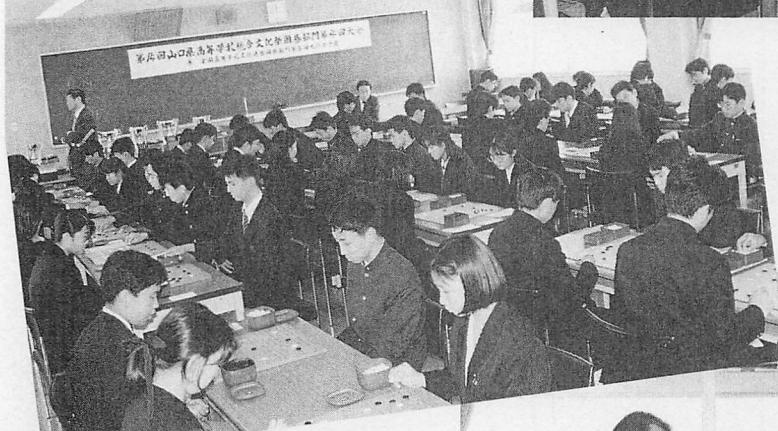


開会式

対局風景

対局風景

表彰式



## 演劇部門

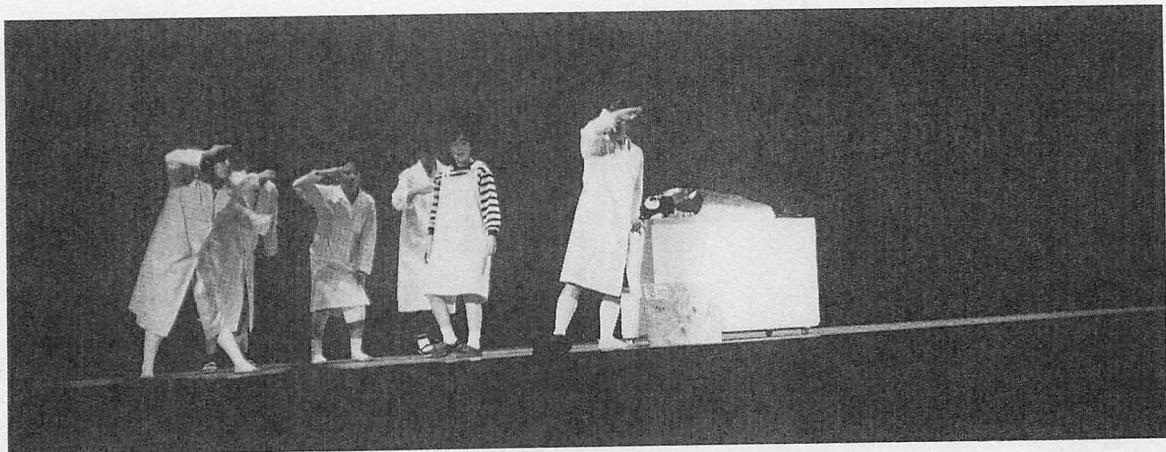
会場・下関市文化会館

理事長 三藤真人  
(厚狭高等学校教諭)

下関南高 「学習図館」

遊○全自動シアター 作

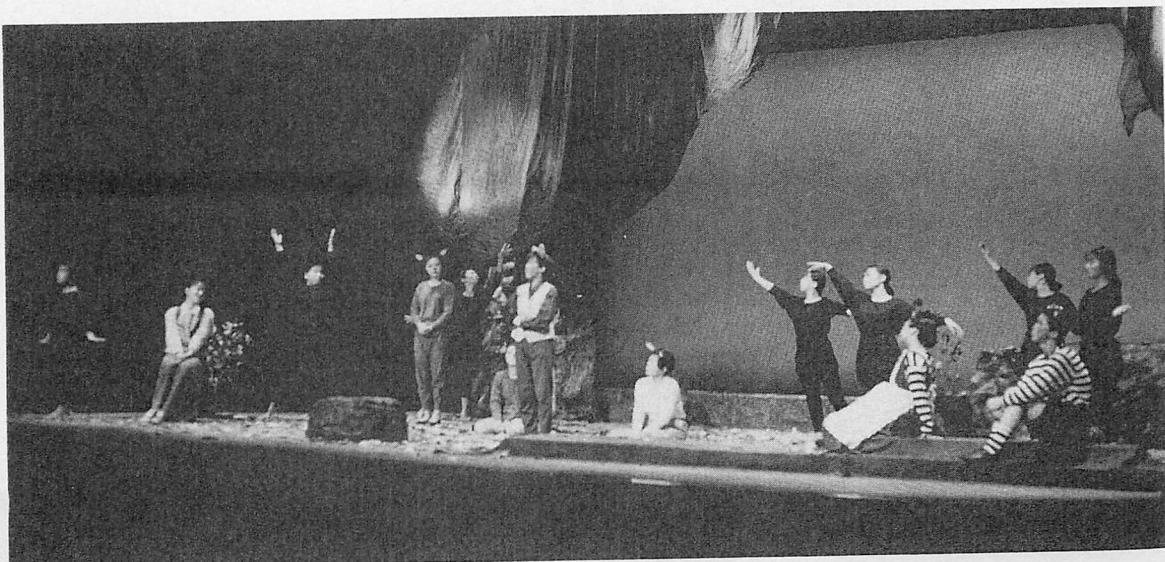
少年少女の澁刺とした演技、コミカルで楽しき一杯。照明・大道具の工夫に見所あり。表現の豊かさが全体のテーマを上手に育み得るかどうか。



岩陽高 「The Fragile Earth」

～こわれもの注意 倉田恵子 作

環境問題。地球汚染。報道員として冷泉寺のキャッチしたものは…。動物たちの個性的な演技と、異星人ウィル、そして人間と、ドラマの生まれる時の緊張感は高まってきた。

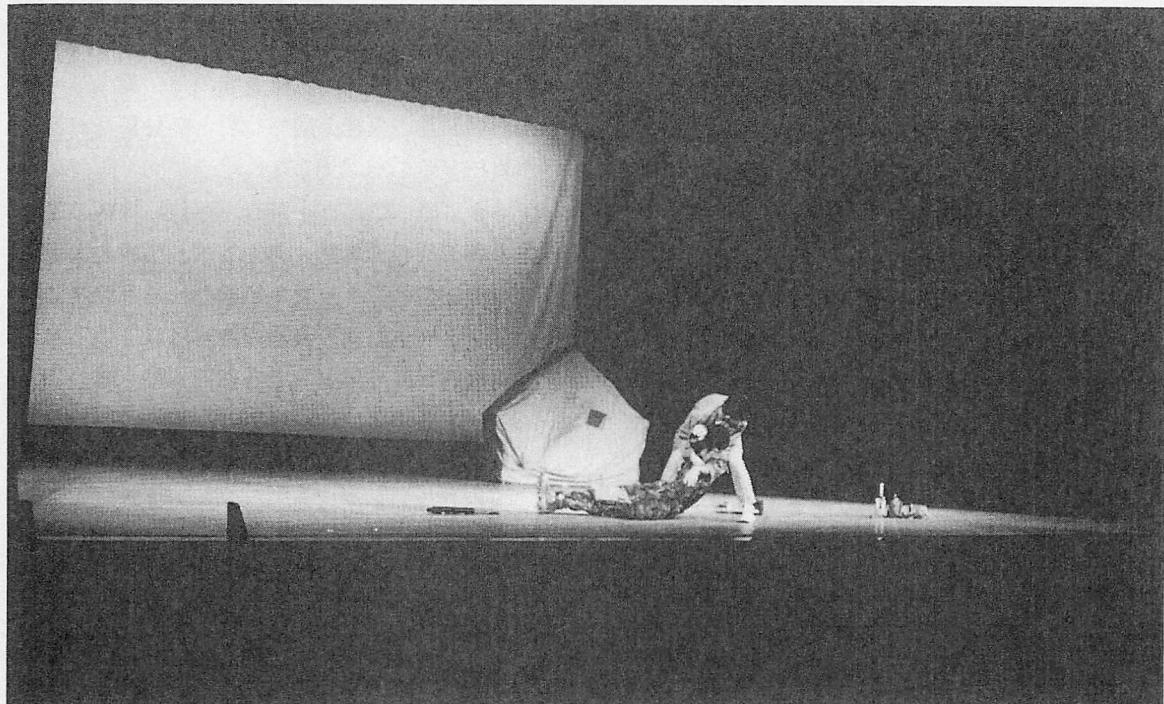


下関中央工高 「LAST GATE」

下関中央工高演劇部 作

戦場を舞台に、一報道員と兵士の極限状態の中での対話。その場の特殊性から出てくる台詞の重さ。力。

「人がふともらす言葉にものすごくいい言葉がある。」(顧問の先生の言)



梅光女学院高・山口中央高・宇部中央高・県  
鴻城高等の好演もみられバラエティに富んだ県  
大会であった。



講評

# 展示関係部門

会場・ときわ湖水ホール

主管校 白 岩 博

(宇部中央高等学校教諭)

昨年会議で、会場がときわ湖水ホールにすでに決っていたので、地理的に一番近い本校が主管校になってくれとの話を聞いた。しかし本校は主管校制になって最初の年にやっているので、まだやっていない学校にやってほしいと思った。しかし来年度は美術の全国大会が山口であるので、その関連でやらざるをえないかなと思ってひきうけた。

そうこうしているうちに前年度主管校の宇部工業高校から高文祭で使用した書類、組織図、計画表、出張依頼、予算書など莫大な量の資料が私の手許に届いた。それを見てびっくりした。前回とはちがって仕事量、仕事内容がうんとふえているのである。オープニングセレモニー、講評会、講演会といったものは初めてである。公文書がひじょうに多いのである。少し不安になってきた。しかし宇部工業高はうちの近くだし、松田先生は話しやすい人なので、相談しながらやっていったら、どうにかこなせるかなと思った。

11月中旬頃、ときわ湖水ホールへ予約をしに行った。一応、予定台帳に記入してもらい、内定をとった。正式予約は半年前なので、5月11日に正式書類と共に承諾書を出した。それに先だって共催願を宇部市教委に出した。しかし、許可が出たのは共催ではなく、後援としてであった。後援では使用料等が全額無料にならないので、青くなつた。どうにか説得して共催にしてもらった。会場関係の件についてはもう1つたいへんなことがあった。開催日10日前頃に市の行事で1室、使いたいと連絡があった。そこは講演会場に予定していた場所である。これでは計画がメチャメチャになるので、筋を通して証明して、やっとのことで、了解してもらった。

4月に入り校内の組織を固めた。美・写・書の部顧問及び生徒会関係教員と校長である。主管校として歩み出した。

5月には、宇部、小野田（厚狭）地区の先生方と各部門の理事長、前主管校、県教委文化課の総勢19名のスタッフを組織し、11月開催に向けてスタートした。会議の内容は以下のとおり、

- 優秀賞は昨年どおり各部門応募点数の10%とする。
- 書道部門は優秀作品の中から即、全総文の出品作品を選ばない。
- 本年度より書道部門は1校2m以内とし、大小作品を数点展示できるように工夫する。
- 出品目録は題名を入れることとする。
- 申し込み〆切は会期初日の3週間前とする。
- 記念講演は山口大学教授の秋山泉先生にお願いする。
- 賞状は「優秀賞」と「賞状」の2種類を作成する。
- オープニングセレモニーは宇部市内の高校の生徒会役員の協力を求める。
- 飾り付け、受付は部活動の生徒の動員により行う。
- 宣伝は新聞社、テレビ局をはじめ、市内の全高校へチラシ配布。市教委へ依頼して、中学校へ配布する。
- 講評会には、出品した生徒はもちろんのこと多数の参加があるよう文書で校長宛書類を発送する。

以上を決めた。

先生方のご熱心なご協力のもとでスムーズに準備が整い、アッという間に当日がやってきた準備はじゅうぶんしたつもりであったが、いくつか反省するところ、感ずるところがあつた

のでここに列記する。

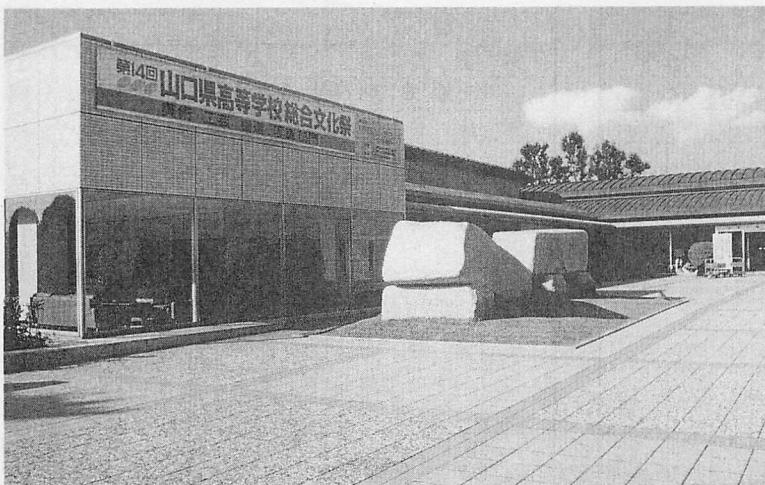
- 校内の組織をもっと緻密にする。片うでとして動ける人（部分のつめをやってくれる人）を最低3人は確保しておく必要がある。
- 開催期日と自校の文化祭の日が重なっていた市内の高校が3校もあり、生徒の動員、先生方の派遣ができなかった。
- 宅急便による搬出は数が多いと、世話ををする人はたいへんなので、（今年も多かった）返送用荷づくり用品（あて名記入ずみのもの）と運送会社の送り状（あて名記入ずみ）等を宅急便希望校が同封して搬入すること……このことは募集要項にはっきりと書いておくとよい。
- 講評会と講演会、搬出の時間帯はそれぞれ移動、調整の時間をじゅうぶんとて設定する必要がある。（時間においまくられて、

バタバタして、皆さんに迷惑をかけてしまったので)

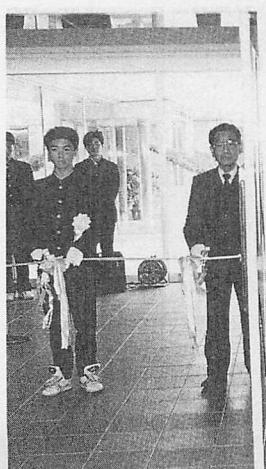
- 出品目録作成では書道の題名に困った。うちの書道の先生は非常勤講師なので、国語の先生に聞いたが、わかりにくく漢字が多くかった。
- ときわ湖水ホールは場所がわかりにくく、交通の便もよくないので、はじめての方は来にくかったと思う。
- ファックスは緊急時の連絡では大いに役に立った。

#### おわりに

おおくの方々のご協力により盛大に、無事終えることができました。どうもありがとうございました。



会場 ときわ湖水ホール



オープニングセレモニー

## 第14回 県高総文祭展示部門出品作品数

学校名	美術	書道	写真	優秀賞
安下庄				
久賀				
岩国	5		1	
岩陽	5	4	7	1
岩国商業				
岩国工業			3	
坂上				
広瀬				
高森	5	4	4	1
柳井	5		7	3
柳井商業				
柳井工業				
熊毛南				
田布施農業				
田布施工業	4		3	
光				
光丘				
熊毛北	1	3		1
下松				
華陵		11		
下松工業				
徳山	5	4	1	
徳山北	3	21		
徳山商業				
徳山工業			1	1
鹿野	4	12		
新南陽		2		
南陽工業			7	1
佐波				
防府	5	7		2
防府西				
防府商業				
山口	5	6		2
山口中央	2	2		1
西京	5		1	1
山口農業				
宇部			7	
宇部中央	5	4		1
宇部西	5	4	5	
宇部商業	5	4		
宇部工業		9	5	1
小野田			4	
小野田工業		3	7	2
厚狭	1	3		
美祢	4	3		1
大嶺	4			1
美祢工業			7	2
田部				

学校名	美術	書道	写真	優秀賞
西市				
豊浦	5			1
長府	5			1
下関西		7		3(共同)
下関南	1	3		1
下関第一		5		
下関中央工業	1			1
下関工業	4			
響				
豊北				
日置農業				
大津水産	5	2		3
萩				
萩商業	3	3		
萩工業	5			
徳佐				
奈古				
盲聾				
岩国養護				
田布施養護				
徳山養護				
防府養護	2			
宇部養護	1			1
下関養護				
萩養護				
下関商業	3			
高水	5	2		1
柳井学園				
聖光				
山口県桜ヶ丘				
三田尻女子	6		1	1
多々良学園	2	2		
中村女子	5	4	7	
野田学園	3	1		1
山口県鴻城				
宇部鴻城				
宇部女子	5			1
美祢中央	2	7		
香川	5	3		2
サビエル				
早鞆				
下関女子短期大学付属				
長門				
萩光塩学院	5	3		1
のべ85校(実50校)	37校	31校	17校	30校
計	376点	146点	153点	77点
				41点

優秀賞を各10%

## 美術・工芸部門

会場・ときわ湖水ホール

水津真理

(宇部女子高等学校教諭)

美術・工芸部門は37校が参加、作品の出品総数は147点であった。湖水ホールの大ホールに書道部門と美術・工芸部門が展示することとなつたが、相応のスペースがとれ、比較的ゆったりと鑑賞できた。本年も油彩の作品が多く、力作が増加しつつある。主題も多様化し、高校生の日常を反映したもの（友人達、身近な風景、自画像）、静物、空想的題材、構成モチーフなどバラエティに富んだものとなった。デザインは幻想的なもの、和風なもの、構成や基本的なものなど種々の作品を見ることができたが、今年は環境保護を訴えるものが数点あり、デザインの使命に適った取り組みと言えるだろう。柳井高校の日本画も美しい仕上がりで特徴ある存在であるし、三田尻女子高校の工芸作品、ステンドグラスランプも良い作品であった。全体的にはかなり充実した内容であった。一般・高校生の鑑賞者にも好評を得ることができたが、中には自分の描こうとするものを表現しきれていないものもあった。これは、勉強途中の者としては、

そのようなこともあるわけで、広い会場に一堂に展示され、他者の作品を見ることで、あらためて、自分の持っている問題に気づいたり、新たなチャレンジへの意欲が湧いてくるのではないかだろうか。初々しく、真摯な作品が並び、若者らしい発想のやわらかさを感じさせてくれる高校生ならではのこの展示部門がよりポピュラーな存在になり、年に一度の出会いの場になるということはすばらしいことではないだろうか。

なお、全作品の1割が優秀賞となったわけであるが、次の5点が来年度の全国高校総合文化祭の候補作品となった。

「最後の夢を見る君へ」

高森高校 1年 朝木 桜

「菖蒲園」 柳井高校 2年 古谷亮子

「或る女」 山口中央高校 2年 向井千哉子

「牛骨のある静物」 大津高校 2年 入江葉子

「Save the earth.」

宇部女子高校 2年 掛橋里枝子



講評会

第14回県高総文祭の記録

# 書道部門

岡 正哉

(小野田高等学校教諭)

昨年度に引き続き今年も宇部市で宇部中央高校主管のもと、ときわ湖水ホールで開催されました。宇部近郊の高校の文化祭と日程が重なったので、生徒の手が少々不足気味であったが、努力の結集で搬入、展示、搬出を滞りなく済ませることが出来ましたこと感謝の念に耐えません。生徒の皆さんお疲れさまでした。

書道部門で去年との相違は「1枚2m<sup>2</sup>以内とし自由なサイズ形式を考慮する」という要項にあった。出品点数141点、参加人数154人と去年より参加点数、人数とも増加を見、また作品形式もバラエティーに富んでいたが、残念なのは作品が小さくなりすぎて会場とのバランスがとれていなかつた点にあると思われる。来年は考

慮すべきではなかろうか。

優秀賞も書道部門で15名を出しましたが選考にあられた先生方のご苦心は計り知れないものがあったとお察しいたします。他の2部門と書道では優秀賞の中より来年度の全国高校総文に出品する作品を選ばないという点にあるが、来年度よりこの点も同步調にしなければならないと思う。それにより審査方法も慎重にする必要があろう。

鑑賞に参加された生徒の人数が少なかったのは学校の生徒会、学校自身の姿勢にあると思いまして、文化面の向上になお一層のご理解をいただきますようお願いいたします。



展示風景

## 写真部門

会場・ときわ湖水ホール

元 永 百合心

(小野田工業高等学校教諭)

今年度の作品は昨年度より20点減少し、77点となり、参加校も減少したことは誠に残念であった。

今回は日報連字部支部長・宮村義明氏を審査委員として、審査ならびに講評をいただき、大変好評であった。

作品内容と仕上げ・撮影技術にレベル差が大きくあったことも、今回の特徴ではないかと思われる。会場にはトリミング、スポットティング、プリントテクニック（焼き込み、覆い焼き）の一寸したアドバイスで上位に食い込める作品も多かっただけに、これから暗室技術の向上を期待したい。また、カラー作品も若干増えたようと思われるが、カラー作品はフィルム現像もプリントもラボ任せとなるわけで、部員はシャッターを押すだけとなり、評価は低かったようだ。

特筆すべき入賞作品

○写真映像の表現を開拓すべき取り組んだ調色

徳山工業高校 2年 藤田 雄二

○イメージを広げるダブルプリント

柳井高校 2年 三村 貴則

○適確なシャッターチャンス

美祢工業高校 2年 高畠 伸一

三田尻女子高 1年 宮村由希子

小野田工業高 2年 中山 剛

以上であるが、今回残念ながら入賞できなかった生徒諸君は、自作品の欠点を冷静に拾い出し、よい作品を沢山目に焼き付けて、今後の写真制作に役立てて欲しい。そして、来年度の県総文にはより一層引き立つ写真を出品して欲しいと願っています。

末筆ながら、作品の展示ならびに撤去に際し、多大の協力をいただいた宇都市内の生徒諸君に對し、感謝の意を表したいと思う。



講評会

# 第16回全国高等学校総合文化祭の記録

「おこそう 文化の波 マリンロードに のせて」のテーマのもと、第16回全国高等学校総合文化祭は、8月3日から、エメラルドグリーンの海に囲まれた沖縄県で開催された。

全国から参加した高校生は15,000人余り、そしてアメリカハワイ州、シンガポール、マレーシアからもはるばる海を越えて特別参加。真夏の沖縄各地に、青春の文化の祭典が繰り広げられた。

山口県からは下表の19校268名の代表が参加。台風10号の影響で、後半の日程の一部が変更されて実施されたが、ステージや展示に、日頃の活動成果を十分に発揮してくれた。

折しも沖縄県は日本復帰20周年記念にあたる年。国内外の若人たちの交流と友情の輪の広がりの中で、「平和」のありがたさを改めてしみじみと感じた6日間であった。

以下、参加各部門からの報告である。

## 参加校一覧（山口県高文連）

### 第16回 沖縄大会テーマ『おこそう 文化の波 マリンロードに のせて』

部 門	高等學校名	參加生徒	出 品 点 數	備 考 (演奏曲目・作品等)
(パレード)	(三田尻女子)	(21)		一パントワーリング部門に参加
合 唱	野 田 学 園	65		混声「O quam gloriosum est regnum」「方舟」
吹 奏 楽	防 府 西	45		チャイコフスキ「交響曲第4番終楽章」「ユーミンポートレート」
器 楽・管 弦 楽	防 府	78		ワグナー「ニュールンベルクのマイスター・シンガー前奏曲」他
マーチングバンド・パントワーリング	佐 波	35		「フレッシュ ウインズ'92」より
	三田尻女子	21		(総合開会式に県代表1名出席)
日 本 音 樂	萩	10		「祭花二番」
吟詠・剣詩舞	下 関 工 業	2		
	聖 光	2		(合同出演)
	中 村 女 子	1		構成吟「西の京 山口」
美 術・工 芸	山 口	1	1	油絵「先生」F40 上坂 美礼(3)
	山 口 中 央	1	1	油絵「静物」F50 横田 文恵(2)
	西 京	1	1	彫塑「友人像」B1 坂根 弓子(3)
	防 府	1	1	創作「発願」(縦)166×88 上条 真(3)
書 道	宇 部 西	1	1	創作「松陰先生の言葉」三隅まゆこ(2)
	厚 狹	0	1	臨書「臨賀捷表」(縦)135×35 熊高 直美(3)
	香 川	1	1	創作「山上憶良の歌」(縦)163×83 倉田 幸枝(3)
	柳 井	1	1	「飛しつこ」単白黒(縦)53×(横)64 弘津 聖也(3)
写 真	美 桃 工 業	1	1	「アフリカは広かった…」単白黒 笹見弘信治(3)
	小野田工業	1	1	「熱・援」組カラー 藤井 煉(2)
	宇 部	0	1	「母と娘」単白黒(縦)43×(横)54 金山 淳一(3)
合 計	19校 (延べ21校)	268名	11点	



総合開会式（沖縄コンベンションセンター）



パレード（那覇市国際通り）



海外からの参加 アメリカ合衆国  
ハワイ州

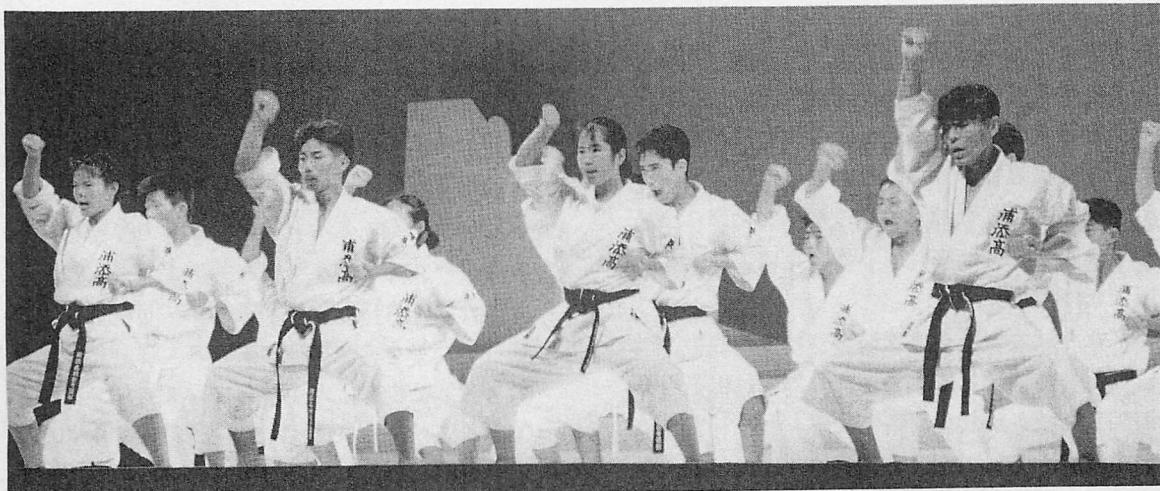
アメリカ合衆国  
ハワイ州

マレーシア  
民族舞踊

沖縄の歓迎  
琉球舞踊

空手





## 器楽・管弦楽部門

会場・沖縄市民会館

尾 中 宏・吉 武 官 三  
(防府高等学校教諭)

去る8月7日、「おこそう 文化的波 マリンロードに のせて」のテーマのもと、本土復帰20周年記念行事として、沖縄市民会館で開かれた第16回全国高等学校総合文化祭 器楽・管弦楽部門に参加させていただきました。となるはずでしたが、折からの台風9号襲来に妨げられ、折角の演奏会が当日朝になって中止となりました。

高文連、県教委を始めとして学校、保護者等の多大のご尽力をいただき、やっと実現しました今大会出場でしたので、後ろ髪をひかれる思いで、予定より2日遅れて沖縄を後にして帰つてまいりました。尚演奏会の方は、翌日沖縄に残留している学校だけで交歓会という形で持たれましたが、本校は行事の関係でどうしても出場することが叶いませんでした。

演奏会の方は中止となりましたので、その間の様子を記録することはできませんが、沖縄に向けて、弦楽部員一同努力し頑張ってきましたので、その準備過程におきまして、得るところ大でしたので、その辺のところを参加生徒の感想文を引用しまして、報告に変えさせていただきます。

それまでの日差しとは、うつて変わってギラギラと照りつける太陽のもとで、私は沖縄へ来たことを実感しました。私たちは昨年の夏、沖縄で開催された全国高等学校総合文化祭に出場してきました。沖縄は思っていた以上に美しい所でした。

私たちはこの総合文化祭にむけての曲を1年にわたって練習してきました。練習は出発当日の朝まで続きました。宿舎に着くとそれまでの旅の疲れもでしたが、すぐ目の前に広がる、今

まで見たこともないような青く美しい海を見るといつのまにか消えてしまいました。もちろん夕食の後も本番にむけての練習です。次の日は沖縄のいろいろな名所をまわりました。残念なことに、時間もあまりなかったので白ゆりの塔などには行くことができませんでした。それでも戦争の悲惨さだけは忘れてはならないと思いました。その日の夕方には交歓会が開かれました。不安や緊張の入り交じった気持ちで出席しましたが、同じパートの人や隣の人達とそれぞれの学校の話や楽器についての話に盛り上りました。そうしているうちにゲームが始まりました。沖縄の方言はとても変わっていて、その方言がどういう意味なのかななどして、楽しく過ごしました。しばらくこのゲームが続き、最後に名刺の交換をしました。短い時間でしたが、他校の人達と交流を深めることができうれしく思いました。帰りのタクシーの中で天気が急に悪くなりました。台風が接近しているとのことでした。よりによって本番の明日に来るなんて、それからは自宅に連絡をとったりいろいろ大変でした。明日には台風がどっかへ行ってしまっていますようにと願っていましたが、やはりダメでした。激しい雨や風の中私は先生とタクシーで会場に向かいました。プログラムをいただきました。係の人達はとても親切で誰もいないホールのステージに立たせてもらいました。今まで練習して来た日々が頭の中を駆けめぐりました。本当に残念でした。私たちは演奏した後、すぐ帰るようになっていましたが、台風の影響で大幅にダイヤが乱れていて、帰りたくても帰れません。先生達も大変苦労されたようでした。翌日には天気もほとんどよくなっていました。

したが、今度は台風が本州に接近していて、帰ることができませんでした。予定より2日も多く滞在することになりましたが、とても貴重な

経験となりました。この大会に向けての練習は無駄ではなかったと私は信じています。

#### 第16回全国高総文祭の記録

## 合唱部門

会場・那覇市民会館



(野田学園高校) 那覇市民会館

#### 全国高校総合文化祭合唱の部に参加して

野田学園高校3年 河村 順子

8月3日から7日の5日間、沖縄県で全国総合文化祭が開催されました。本土復帰20周年ということで、私達にとって熱い夏となりました。

私達が合唱部門の代表として出場決定を知ったのは、まだ3月の定期演奏会に向けて練習しているころでした。嬉しいと喜ぶばかりで、文化祭の重要さをそれ程分かっていませんでした。

その後は毎日練習でした。全国レベルを知らない私達には、分からぬ事がたくさんありま

した。私は厳しくそして楽しく練習しているつもりでしたが、心の中は期待と不安が混ったような複雑な気持ちでした。その上、練習は全て上手に進みません。悪い所はきりが無い程でした。私達は、聞く人が退屈しないような、そしてその人達の心を打つような歌を歌おうと練習をしました。

制服が冬服から高校生活最後の夏服と変わること、練習をしていて私は『もう、頼る先輩はない』と、ひしと感じました。

6月の山口県高校総合文化祭で、私は少し挑

戦的な気持ちでステージに立ちました。そしてこのステージのテープを参考に、パート練習で気付きを言い、また初心にかえったつもりで練習をはじめました。

夏休みに入ると、当然ながら練習は厳しくなりました。50人もの部員がひたすら歌うのです。その姿は夏の暑さより熱く、音楽室には常に歌声が響いていました。練習が厳しいのです。決して体力的にではありません。先生の言われるようになんて歌えないのです。何度も歌っても変わらないので腹立たしいことさえありました。もう時間がありません。更に練習に力が入りました。

私達を迎えてくれた沖縄は、とても明るく、活気にあふれていたように思えました。

次の日、私達は会場へ向かいました。その日の空は真っ青で、私達も嬉しくなる程でした。

開会式が終わると、全国の高校生の合唱が始まりました。ステージで歌っている高校生は、スローガン『おこそう文化の波 マリンロードにのせて』のとおり、一生懸命で熱く燃えている様に見えました。野田学園の順番は38番目で最後でした。私達がステージに立つ時、会場の人は少し疲れた様でした。学校紹介では野田学園というより、山口県代表として、しっかり山口をアピールしました。それは会場の人々に笑いを誘いました。先生の指揮が始まると、私は自分でも信じられない程緊張しました。4つの声は

1つとなって方舟に変わり、波と共に動き出しました。全国の人が見ている。聞いているということは、私にとって最も厳しい審査をされているのだと思いました。最後、部長が復帰記念の御祝いの言葉を述べ、私達も続けて「おめでとうございます」と大声で唱和しました。ざわついていた会場から拍手がわき、会場の人達全てが一つにまとまりました。合唱部門はこうして盛り上がったまま、幕をとじました。それは、とても感動的でした。

石島先生は「高校生は5分ごとに、1回1回成長する」とよく言われます。本当にそのとおりだと思いました。1つにまとまるまでには、沢山の苦労があったけれど、最後に味わう喜びは、最高です。合唱はとても魅力のあるものだと思います。そしてその姿に人々は魅了されていると思います。良い成績も私達には必要ですが、合唱ができる、このようなすばらしい経験をさせてもらえることに感謝しています。

文化祭のおかげで『本当の音楽』というものを感じました。私達はみな様に感謝しながら、聞く人の心を打つような『本当の音楽』を、深く勉強したいと思います。

この度、私達の文化祭出場にあたって先生方をはじめ、御指導、御協力して頂き、部員一同心よりお礼申し上げます。

本当に有難うございました。

# 吹奏楽部門

会場・那覇市民会館

矢田部一俊

(防府西高等学校教諭)



(防府西高校) 那覇市民会館

8月4日夕刻、40名の部員が抱えきれないほどの荷物や楽器を持って福岡空港に到着した。大半の者が初めて乗るジェット機に不安を抱きながらも、喜色満面、浮き足立っている。コンクールは直前に迫っていたが、そんなプレッシャーなど何のその、無邪気なもので、飛行機が加速をつけ地上を離れた時など、機内は拍手の渦と化し、安堵のため息がもれるほどであった。

沖縄の暑い夏は想像以上で、肌にその強力な太陽光線が食い込むようで、痛いとさえ感じた。宿舎は快適とはほど遠く、かび臭い部屋に3泊もするのかと思うと、少々うんざりであった。おまけに、ミーティングする広い場所もなく、その夜は寝るだけであった。

翌日、那覇西高での練習は、冷房完備の音楽室で、心ゆくまで吹きまくった。その後バスで、知念海洋レジャーセンターのコマカ島へ、小舟に分乗し、15分位かけて渡った。マリンブルーのすき透った海には、熱帯魚や珊瑚礁が写真のように美しく、その小さな孤島で泳いだり、ビーチバレーを楽しんだりして、2時間の短い貴重な時間を、心ゆくまで堪能した。この経費はO B達が、餞別にと渡してくれたものであったが、ほんとうに有難かった。

帰りの道路は渋滞を極め、沖縄の道路事情の悪さを痛感した。

さて、6日の本番の日、会場である那覇市民館に到着すると、すでにあちこちで、ブーブー

とウォームアップをしていた。体にピーンと張りつめる緊張の一瞬である。そして会場のロビーでは、幸運にも、高文連の石井会長や重広先生と出くわし、激励を受けた。異郷の地で会うと、同郷者同志という妙になつかしい感情が湧き、心強く、嬉しく思った。わが校は、県吹奏楽コンクールの自由曲である『オセロ』と、県のシンボルソング『みんなのふるさと』を演奏した。郷土色を出す意味からも、みんなのふるさとは、適切と判断し、ボーカルの代表3年生2名が、パフォーマンスよく熱演してくれた。

あっという間の12分間は終わったが、県代表の責任を果たしたか、と問われれば「今の本校の力では、あれが精一杯です」としか答えられないであろう。そんなささやかな満足感をもって、ステージを降りた。さあ、今度は各県代表

のハイレベルな演奏を拝聴し、とくと勉強でもさせていただくかという心境で席に座る。

あれは4、5年前の岡山大会の時であった。忘れもしない、大阪淀川工業高校と札幌白石高校の凄絶な演奏に、またそのパフォーマンスの素晴らしさに涙したことを。

今回、あの全日本を代表するような、超高校級の演奏は聴けなかったにせよ、市立川口高校のポップステージにはど肝を抜かれ、手の痛くなるほど拍手をしたし、生徒の感想からは、静岡県代表の東海第一高校の演奏が最高であつたとのことだった。

最後に、今回の演奏旅行には多大な経費がかかり、県高文連はもとより、各方面から数々の御協力を賜り感謝している。今後もより一層研鑽に励み、飛躍したいと部員と誓い合った。



(防府西高校) 那覇市民会館

## マーチングバンド・バントワーリング部門

会場・沖縄コンベンションホール

理事長 花村慈照

(宇部女子高等学校教諭)

今年度の全国高等学校総合文化祭（沖縄大会）には、県立佐波高等学校のマーチングバンドと三田尻女子高等学校のバントワーリングが参加しました。日程は8月3日(月) 18時30分から那覇市街地でパレードが行なわれ、三田尻女子高校のバトンと地元の県立宜野湾高校のバンド演奏で行進を行ないました。地元のバンドが出席しましたので、大変な応援がありました。8月5日(水) 9時20分～沖縄コンベンションセンターイベントホールでマーチングバンド、バントワーリング部門の発表会があり、佐波

高校は14番目に「フレッシュ、ウイズ92」の曲にのってフロアいっぱいにひろげられたドリル演奏は目をみはるものがありました。三田尻女子高校のバトン部は4番目に出場し「Foot Loose Main Theme」のけいかいな曲にのつて演技をし、大きな拍手を受けました。また4日(火)には三田尻女子高校は校長先生をはじめ皆んなで、キャンプフォスターにおいて、米軍沖縄基地第3遠征軍のバンドと交流会を行ない、有意義な1日を送りました。



パレード（三田尻女子高校）那覇市国際通り

全国高校総文に参加して

（三田尻女子高等学校校長）権代敏満

沖縄が本土に復帰して20年を迎える節目の年に開かれる第16回全国高等学校総合文化祭への出場が決まり、生徒たちは、秋から冬、そして春から夏へと懸命に努力しました。その長い、

苦しい練習を通して、技術も向上し互いに協力して何かを作り出す喜びと、自らの表現によって多くの人に共感と感動を与え、たくさんの思い出を持ち帰ることができました。初めて見る沖縄は常緑の島々をとりまく海と空の配合が格別に美しく、とくに海はサンゴ礁のために澄み

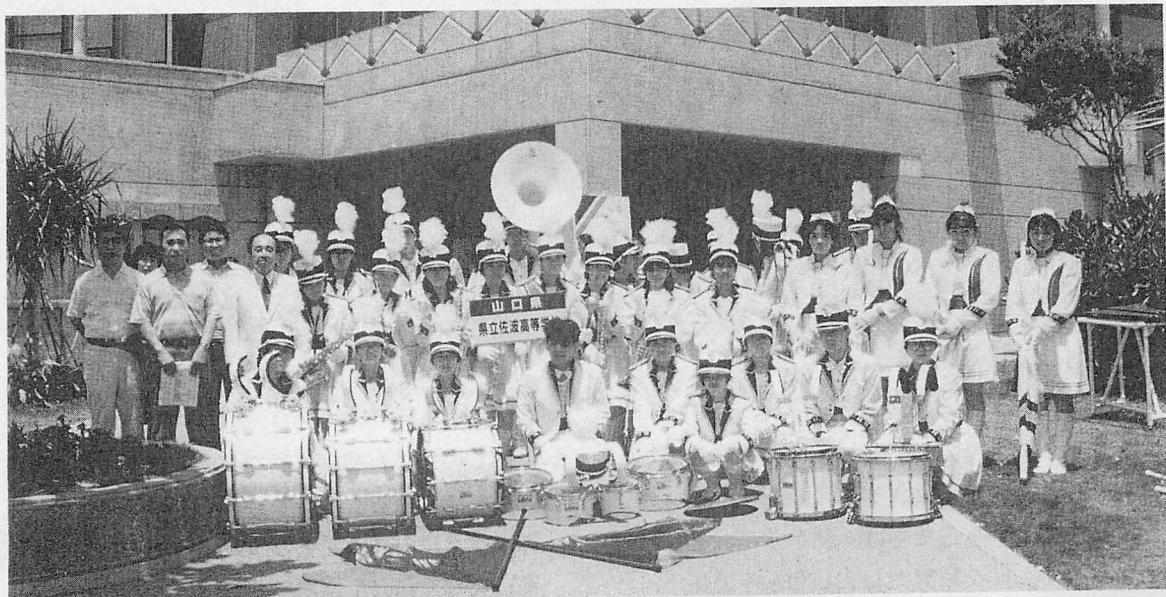
切って見えました。着いてすぐ私たちは沖縄を訪れる者が関心を寄せる、ひめゆりの塔や摩文仁岳など、太平洋戦争末期1945年3月末から6月にかけて激しい戦闘が行われた南部戦跡をめぐりました。イチャリバショーデー（出合えばみな兄弟）ではじまった開会式。高校生の満々しい感性と表現がマリンロードに乗って沖縄の地から全国へ伝えられる、その交流の大きなうねりの中で、私たちは沖縄を実感しました。記念パレードが行われたのは那覇市の中心街国際通り。7番目のスタートでした。パートナーが地元の宜野湾高等学校ということもあって沿道の声援もひときわ大きく有難く思いました。沖縄へ行く前、練習会場の確保が最大の関心事でしたが、幸い1年前の「こどもの日」山口市のパークロードで共演した、キャンプフォスター米軍沖縄基地第3遠征軍バンドのご好意で、キャンプ内の体育館を使用することができました。8月4日、10時18分、会場の宜野湾市沖縄コンベンションセンター、イベントホールのフロアに生徒が登場しました。演技がはじまり、終りました。よくやった！笑顔で胸を張って堂々と退場していく生徒たちを拍手で見送りました。一人一人が厳しい練習に耐えて、しなければならないことをやり通す、その積み重ねが見事な演技として披露された瞬間に立ち合えたこ

とを喜びました。あれから4ヶ月、工事のために練習する場所もない状況の中で、生徒たちはひたむきにバトンと向き合っています。その新しいチームにも全国大会出場という、同じ夢を見させてやりたいと願っています。

#### 全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立佐波高等学校 原田 陽子

飛行機での沖縄への旅。青い空に青い海の沖縄、夏まっさかりの8／3～8／7。沖縄で開催された全国高等学校総合文化祭に、私達は山口県代表として出場しました。わずか30人あまりの演技・演奏を精一杯することができました。毎日の辛い練習を乗り越えての出場でしたから、本当にうれしさでいっぱいでした。また全国からよりすぐれたバンドのみなさんを見て、新たな感動を与えられるか、それがマーチングをするものの目標となり、心の励みとなることも改めて思いました。すばらしい演奏・演技、盛大な拍手や声援、演技する者も、応援する者も、一生懸命でした。わずかな時間でしたが、みんなが一つになれたような気がします。南の島、沖縄での夏、私達にとって貴重な体験ができ、たくさんの思い出ができました。この体験を生かして、1つでも2つでも磨きのかかったバンドに成長できればと思います。



(佐波高校) 沖縄コンベンションセンター

# 日本音楽部門

会場・沖縄市民会館

## 「全総文を終えて」

萩高等学校2年 大久保志帆子  
文化部をかけもちしている私にとって、この夏休みは昨年とは比べものにならない程忙しいものでした。が、3年の先輩方は受験勉強との両立でさらに大変だったと思います。

沖縄での全国大会に出場できて嬉しい反面、全国大会という檜舞台で山口県代表として恥ずかしくない演奏ができるだろうかという不安が入り混じり、実に複雑な気持ちでしたが、とにかく後悔だけはしないよう頑張ろうと思いました。

さすが全国大会。初めて聞いた蛇皮線に感激し、他校の演奏のレベルの高さに驚嘆し、最初から最後まで感動しっぱなしでした。今までの大会の中で一番緊張しましたが、最初の決意通り、後悔のない演奏ができたと思います。

今回、この大会を通して、箏の難しさ、楽しさ、素晴らしさを改めて認識しました。数々の感動を与えてくれる『箏』という日本文化に、これからも携わり続けて行きたいと思います。

## 「全国高校総文に参加して」

萩高等学校2年 油屋 幾理

私達萩高等学校箏曲部は、8月5日に沖縄県で開催された「全国高等学校総合文化祭・日本音楽部門」に出場しました。

1年前から「来年は山口県代表で全国大会に行く」ということを合言葉に部員10名が進学校の練習不足を補いながらひたすら練習してきました。講師の先生方も熱心にご指導下さり、リコーダーの演奏を取り入れて、少ない時間も大切にしてきました。

大会2ヶ月前からは県内のいくつかの発表会に出場し、舞台や本番の感じを全身で覚えるようにしていました。

そして当日、ある程度慣れていたとは言ってもそのスケールの大きさに緊張と興奮が最高潮に達した時、私達は演奏しました。

プログラム3番という早い順番にも拘わらず、今までの全ての練習が凝縮された私達なりの珠玉の7分間を創り上げることができたと思います。演奏後は感動で胸が一杯で言葉がありませんでした。

それでも「全国大会」の水準の高さには驚きと刺激を受けました。しかしそれと共に私達がその一部分を担って決して恥じることのない演奏をしたと確信しており、またそのことを大変誇りに思います。

いろいろと学ぶべきところも多くあり、忘れられない感動もあったこの全国大会は私達の高校時代の心のアルバムにまぶしく残ることだと思います。



(萩高校)

# 吟詠剣詩舞部門

会場・宜野湾市民会館

岩崎 稔生

(中村女子高等学校教諭)

第16回全国高等学校総合文化祭が沖縄県で、「おこそう文化の波 マリンロードにのせて」のテーマのもと、盛大に、また吟詠剣詩舞部門は8月4日(火)に全国から約400名の高校生が参加して、宜野湾市民館で開催されました。

山口県の高等学校における吟詠剣詩舞の活動は限られた学校における活動となっていますが今回の全国大会には、下関工業高校2名、聖光高校2名、中村女子高校1名の計5名の高校生が参加しました。

山口県は23番目の出演で、「西の京 山口」を吟じました。

下関工業高校の辛嶋先生のご指導のもとで、合同練習を3度、本校で行い、全国大会にそなえました。

本校から参加した瀬本美恵さんは、吟詠を始めて1年余りですが、本校の吟詠部顧問の藏重昭子先生のご指導を受け、構成吟の中で、和歌3首を吟じました。日頃の練習でめきめきをつけ堂々の発表であったと思っています。

山口県の高校生の吟詠剣詩舞の活動がますますさかんになることを願っています。

## 第16回全国高等学校総合文化祭に参加して

中村女子高等学校 瀬本 美恵

私が詩吟を習いだして約1年と半年という去年の8月、全国高等学校総合文化祭出場の為、沖縄に行きました。わが中村女子高校からは私1人、聖光高校から2人、下関工業高校から2人、計5人で山口県代表として「西の京 山口」という構成吟を発表しました。一応前日にリハーサルを行ったのですが、何分沖縄に着いたのが夜遅くで、全体を一度通すだけで当日を迎

てしまい、とても不安でした。出番となり、真



(山口県代表メンバー)

っ暗な舞台で自分一人にだけライトが当たられ、目一杯緊張しながら詩を吟じたことを覚えていています。途中、詩を忘れてしまい、今となってはどんなことを吟じたのか覚えていませんが、何とかその場をきりぬけ、最後にみんなで合吟をし、無事出番を終わらせることができました。終わった直後の私の頭の中は真っ白で、そのあと自分が詩を忘れてしまったことを、恥しいやら情けないやら、穴があいたら入りたいような気持ちになりました。だけど先生や、一緒に沖縄に行った4人になぐさめられたりしてとてもうれしかったです。今思うと、私は沖縄に行けて本当に良かったなあと思います。友達もできたり、詩吟を始めて自分自身成長でき、これまでいろいろな経験をさせてくれた詩吟に対して、そして詩吟を教えてくれた先生に感謝の気持ちで一杯です。

# 美術・工芸部門

会場・那覇市民体育館

山口中央高等学校2年 横田 文惠

8月3日から7日に渡って、全国高等学校総合文化祭が沖縄で開催されました。総合文化祭とあるように、合唱、演劇、書道、マーチングバンドなど、いろんな部門があり、私は美術・工芸部門に参加しました。会場は那覇市民体育館でした。部門によって、会場がちがっていたので、私が鑑賞できたのは、美術・工芸と、パレードだけでした。

作品数は650作品くらいあって、日本画、油絵、デザイン画、彫塑などいろいろでした。すべて同じ高校生の作品だったけれど、高校生らしい作品から個性にあふれる作品まで、それぞれだなあと思いました。でもどの作品も、作者の思いがこめられているのはいっしょで、よく見る側に伝わってきました。

ひと通り、最後まで作品を見終わったとき、「やっぱ、全国はちがうな。」と、すぐに思いました。中でも1、2作ほど特に心に残った作品がありました。

油絵では、小さい筆で何事も何度も色を重ねて、暖かい、やわらかい感じを表したものや、大胆に絵の具をチューブから出したまま、それを絵にして迫力を表したものもありました。絵に現れる思いは、人それぞれ、ちがうと思うけれど、絵の具のつけ方は、真似できるし、参考にもなりました。

デザインでは環境問題をとりあげた作品が多くなったように思います。デザインは、端的に自分の思いを伝えなければならないから、図柄も色彩も両方大切だと思いました。

高校総文に参加して、いかに美術に進む高校生が多いかがわかりました。本当は、もっと多

いと思います。その分、がんばらないとなりません。でも、全国の高校生の作品を見ることができてよかったです。とても勉強になりました。



山口高等学校3年 上坂 美礼

思いがけず賞を頂き、モデルの先生も、「よくかけたね」と喜んで下さり、恵まれた機会をありがとうございます。ただ、出品間際まで問題点が尽きず、特に、雰囲気はまとまってきたのですが、デッサン力不足が気になっていました。県内の会場では、皮ふの色について研究するよう御指導を頂きました。皮ふの色がつかめず、分からままかいていたのですが、最も大切な課題のひとつです。

沖縄への出品が近づいて、どうしてもかき直したい気持ちが生じて、実行したものの、受験生であるという意識だけは強く、また締め切りも気になり、何より課題も克服していないため、思うようにはいきません。少し申し訳ない気がします。沖縄の会場で、ひとつひとつの作品を鑑賞しましたが、全国の活動する高校生の存在を知りました。彼らに触発され、素晴らしい出会いがありました。

## 写真部門

会場・浦添市民体育館

柳井高等学校3年 弘津 聖也

ある晩、「沖縄行きが決まったよ。」と藤川先生から電話がかかってきた。自分はその時、協力してくれた写真班の仲間、特に大西雄三君に心の底から感謝した。

それから1年後、

8月3日

期待に胸を躍せながら福岡でヒコーキなるものに乗った。それは走り出すと私をシートに押しつけ、フッと軽くなつた瞬間、傾きながら大空へと飛び立っていた。目まぐるしく変る光景に夢中でシャッターを切った。ふと気付いた時にはフィルムを1本使い果たし、シャーベットのからが無残に転がっていた。もっと味わって食うべきだった。高度を下げる毎に日の光が変り、イルカの群やサンゴ礁が見え南国ムードムンムンであった。

そんな私たちを迎えてくれたのが記念パレードだった。出番がくると緊張した顔がみるみるうちに華やいでいた。4、50kgの荷物をしょいこんだ我々も負けじとその道を行進した。あたる視線が痛かった。

8月4日

まさかの奨励賞。ヤッター！

「賞状と会場の氷で腕立てふせ」の写真をふざけついでに撮るべきだったと後悔。なんの価値もないか。

8月5日 一撮影会一

友達ができ焼肉を食ったり住居の説明を受けたり1日中ハッピーハッピーであった。

明るく澄んだ海には

褐色で多孔質の琉球石灰岩

その上を輝かんばかりの青さの熱帯魚が1匹。

小島の涯上には生い茂るアダンの緑。

澄み切った青空には白いベニアジサシ。

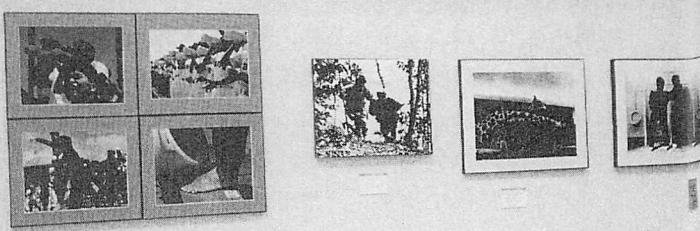
足元の寄せては返すさざ波に引かれつつ帰途についた。

8月6日 一沖縄の人々一

店員もバスに乗合せた人も親切で前向きである。そして子供も外でよく遊ぶ。田舎でもすたれつつあるのに都会でこうあるとはすばらしい。

8月7日

台風銀座に台風がきた。本場の台風への対応は一味違う。単車が倒れ、看板がベコベコ曲が



山口県出品作品 右端 奨励賞（柳井高校）

りつつあっても、シャッター半開きで店開き。居酒屋も灯をともして音楽が流れていた。

崇元寺石門ではキーキーと鳴きつつタカ類1羽が雨宿り。双眼鏡を持っていくべきだった。あ～あ、残念。

8月8日

台風で飛べない。ここは晴れているのに…。連絡待ちの合間をぬい、商店街、市場を見学する。今はどこも活気があるが、高齢者が多いのが気になる。

最終日 8月9日

貸し車で北西部をゆく。白い砂浜は海と対比されすばらしい景色を見せていた。いい所はプライベートビーチになっているのがシャクにさわる。浜は地域みんなのものという地で育ったため、浜が私有され、立ち入りが禁じられると

抵抗を感じてしまうのだ。

ここにおいて、今まで安定した日常生活と沖縄を比較しつつ楽しんでいたことに気が付いた。つまり、しっかりした日常生活の上にこの旅は成り立っていたのだ。

ならば、あと少しの残った時間、十分楽しみ、再び地道な生活に悔いなく帰ろうと気合を入れて楽しんだ。

一面に広がるパイナップル畑に形のよい雲。1枚だけしか撮らなかったけど、心にはハイビジョンの動画で焼きついています。

楽しかった日々と分かれる時が1時間遅れでついに来た。名残を惜しみつつB767-300型機に搭乗した。

福岡に着いた時、新幹線の最終便は発車していた。名残を惜しみすぎたのかな？

## 第16回全国高総文祭の記録

### 書道部門

会場・浦添市民体育館

#### 全総文沖縄大会に参加して

香川高等学校3年 倉田 幸枝

8月3日～7日、15部門が沖縄県で開催され、私は書道部門に参加しました。沖縄県に行ったのは初めてで、書道の面だけでなく自然や文化など、大変刺激を受けました。出展作品には、自分が今まで見たことのなかった書風や紙刻字、気の遠くなる様な字数のものなど、同年代の人のものとは思えない、すばらしい作品ばかりに驚かされました。

講評会では、出展作品の中でも特によい作品が紹介され、改めて作品のよさなど知ることができました。私の作品についても、少しですが紹介をうけ、大変うれしく思っています。

交流会では、北海道、埼玉、静岡、富山、和

歌山、沖縄からの9人のグループで、書や各県のお国自慢など話しあったり、各々伝統の筆で書いた色紙の交換、作品集にサインをしあうなどして、楽しく過ごすことができました。



山口県出品作品

# 囲碁部門

会場・RBC琉球放送ホール

理事長 伊藤秀男

(下関西高等学校教諭)

第5回全国高等学校文化連盟囲碁大会が平成5年1月24日、那覇市のRBC（琉球放送）ホールで開かれた。各都道府県の予選を勝ち抜いた代表選手93人が、会場いっぱいを使っての対局。A、Bの各組別、男女別の個人戦で優勝を争う。選手が一斉に真剣な表情で碁盤に向き合い、唇をかみしめて碁石に手をやり、黙考。気合を入れて打ち合う姿は壯觀であった。本県からは、男子A組に藤山純久君（山口高校1年）、女子A組に三木京子さん（徳山高校3年）、女子B組に三木夕子さん（徳山工業高校3年）が出場。女子A組出場の三木京子さんが、惜しくも優勝は逃したもの準優勝に輝いた。他の選手も集中力、思考力を最大限發揮し、それぞれ自分の力を出し切って健闘した。試合後は相手選手と石を並べ局後の検討をするなど、なごやかに他県生徒との親善をはかっていた。

## 全国高等学校文化連盟囲碁大会について

徳山高等学校3年 三木 京子

とにかく、今年の大会は疲れた。対局数が4局から5局になったからだ。大会は対局数が増えるにつれ強い人とあたる機会も増えるので、集中力を維持するのが大変なのだ。

今回の調子は、まあまあだったと思う。最近ずっと打っていたので、感覚が戻っていて、時間切れになる事がなかったので良かった。

一番印象に残っている碁は、やはり鳥取の田熊さんとの碁だ。私が白番で序盤はあまり良くなかったが、中盤からかなり攻め優勢だった。しかし、1ヶ所の失敗によって、ガタガタになって負けてしまった。負けたのは悔しいけど碁の内容は良かったので、まあいいかなあと思つ

ている。田熊さんには、この夏の全国大会では是非優勝してほしいと思う。

今回また私の宝物が増えた。“友達”である。全国大会に出場する度に友達ができた事は、良い思い出になったと同時に、私を一回りも二回りも成長させてくれたと思う。

・山口県高等学校総合文化祭囲碁部門第  
兼 全国高等学校文化連盟囲碁部門第5回大会



山口県代表

## 全国大会に参加して

下関西高等学校 中村 真言

1月24日、沖縄のRBCホールで第5回全国高文連囲碁大会が開催されました。参加人数は男女合わせて90名余りで、いつになくレベルの高い大会になりました。

選手の約半分が高段者、というところはさすが全国大会だなあ、と感心したものです。しかし、なかには知り合いの顔ぶれもあり、試合前の緊張感をうれしい気持ちがほぐしてくれました。

試合は5回の対局で順位を決めるというシステム方式によるもので、1日かけて行われました。ちなみに僕の成績は2勝3敗で、まあまあの結果といえばそうなのですが、碁の内容は決して満足のいくものではなく、ヘボ碁ザル碁の連続でした。

できれば次の機会にも出場したいのですが、そのためにもなお精進せねば、と痛感しました。

#### 全国高等学校文化連盟囲碁大会について

徳山工業高等学校 3年 三木 夕子

1月24日、今日は全国高等学校文化連盟囲碁大会当日です。試合会場につきました。私にはプレッシャーなど無縁だと思っていましたが、場内の新鮮な空気に触れるといつの間にか緊張している自分がいて、負けたくないという気持ちが強くなりすぎたせいかつい守りの碁を打ってしまいました。

2試合目に勝つと安心からその気持ちも消えていきましたが、結果は3勝2敗でした。

私は今回この大会に出場でき、本当に勉強になりました。守りながら戦うような、自分の碁から逃げていたからです。これからは一手で勝負が左右される手でも打てるような、碁の楽しみを加えたいと思います。また集中力の維持や手を読む力の無さにも気づかされました。少し違った角度から自分を見直す良い機会でした。

この大会の経験は良い思い出としてしまっておき、今後の自分の碁のステップにしたいと思います。

第5回全国高等学校文化連盟囲碁大会  
主催 全国高等学校文化連盟 後援 日本棋院・琉球放送 沖縄タイムス・沖縄県教育委員会



全国大会  
那覇市RBCホール

第5回全国高等学校文化連盟囲碁大会  
主催 全国高等学校文化連盟 後援 日本棋院・琉球放送 沖縄タイムス・沖縄県教育委員会



# 〈自主事業〉 山口県高等学校文化連盟自主事業実施校一覧

学校／事業	ピアノ	マリンバ	フルート	交響楽団	演劇	金管合奏
安下庄	63			平4		
久賀	63			平3		
岩国					平1	
岩陽					平1	
岩国商業			平3		62	
岩国工業				平2		
坂上			63	※	平3	
広瀬			63			
高森				平2		
柳井						
柳井商業					平1 平4	
柳井工業						
熊毛南	63					
田布施農業				平3	※	
田布施工業						
光	63					
光丘						
熊毛北				平2	63	
下松	63					
華陵	63				平1	
下松工業				平1		
徳山		定平4				
徳山北		63		平4		
徳山商業		※	63		平3	
徳山工業					平4	平1
鹿野			平3			平1
新南陽	63					※
南陽工業			平1		62	
佐波				63		
防府						
防府西					平1	
防府商業		定63				平1
山口		定62		平2		
山口中央	63					
西京	62			平4		
山口農業				※	平3	
字部	63					
字部中央		定平1			63	
字部西						
字部商業			63	62	平3	
字部工業			平2			
小野田		定63				
小野田工業		定63			平4	
厚狭			平1			
美祢				平4	平2	
大領	62	平4			63	
美祢工業				63		
田部				平1		

学校／事業	ピアノ	マリンバ	フルート	交響楽団	演劇	金管合奏
西市					63	
豊浦						
長府						平1
下関西						
下関南						
下関第一						※
下関中央工業						
下関工業	62					平2
響				※		平1
豊北	62				平3	
日置農業	63			※		平2
大津	63					※
水産						
萩	63				平3	
萩商業	63					平2
萩工業						平4
徳佐					分63	63
奈古						平1
盲聾	63	平3				平1
岩国養護				平3		
田布施養護						62
徳山養護					平1	
防府養護	62	平3	63			
宇部養護		63※			平1	
下関養護				平2		
萩養護						
下関商業						
高水						62
柳井学園						63
聖光						平2
山口県桜ヶ丘						
三田尻女子						
多々良学園						
中村女子	63					平2※
野田学園	63					
山口県鳴城						
宇部鴻城						
宇部女子						
美祢中央						
香川						平1※
サビエル						
(下関)						
(梅光女学院)						
早鞆						
下関女学院大学附属	62.63	平4				
長門						
萩光塩学院						

(注) ピアノ……弘中 孝

マリンバ……水野与旨久

フルート……西田直孝トリオ

交響楽団……山口県交響楽団

演劇……のんた・宇部芸術座・海峡座

金管合奏……東京金管五重奏団

62～平4……実施年度

※ 印……平成5年度

実施予定

— 須々方にオーケストラがやってきた —  
山口県交響楽団の演奏を聴いて

徳山北高等学校1年 井村千恵子

今日は60人の方が演奏にこられました。このようにスケールの大きい演奏を聞いたことがなかったので、とてもまちどおしくこの日を待っていました。

私は、一番前の席だったので目の前で聞くことができ、非常に感動しました。知っている曲もいくつもありました。CDやレーベルディスクで聞いたり見たりするのとはぜんぜん違い、一番いいのは生で聞くのだなと思いました。楽器の紹介をして下さって、音楽に関して少し物知りになった感じがしました。私は、楽器をふいたり、ひいたりしたことはあまりありませんが、トランペットなどきれいな音が出るにはそういうの練習がいるんだろうなと思いました。曲の紹介などして下さった方の話などおもしろくてハンカチを持って笑っていました。演奏してくださいださった方のほとんどが先生だと聞いてび

っくりしました。先生方の指揮も味がありましたが指揮の難しさが分かり、指揮者の方はとてもたいへんな持ち場であることを改めて思いました。今日は、とてもいい音楽が聞けて心が揺れています。生で聞くのが一番いいと改めて思いました。

徳山北高等学校2年 矢塙 由香

私は、オーケストラの音楽を聞くのが、とても好きなので、何週間か前から、演奏会のポスターが張ってあったのを見た時から、今日が来るのがとても楽しみでした。普通、オーケストラの人達は、暗いイメージが私にはあったけど、今日は、説明してくださった方も、とてもおもしろく、指揮の方も、笑顔が優しくて曲が終るごとに、みんなが拍手をして、その度に笑顔で応えてくれた時には、今まで笑顔になっているのが自分でも分かりました。



私が日ごろ、家でカセットテープで聴くのとは違って、生で聴くとすごい迫力があって感動しました。中でも、校歌の楽譜を見て、すぐに音が1つに合った時はすごいなと思いました。又、ヴィバルディの「春」は、自分の好きな曲だったので、とてもうれしく思いました。

今日は、めったに聴くことができない演奏が聴けて、本当にうれしかったです。また今日の様な演奏会があったら、是非聴きたいなと思います。

徳山北高等学校2年 藤井加津代

めったに聞くことのない演奏が聞けて、とても良かったと思います。私達の知っている曲が多くだったので、飽きずに最後まで聞くことができ

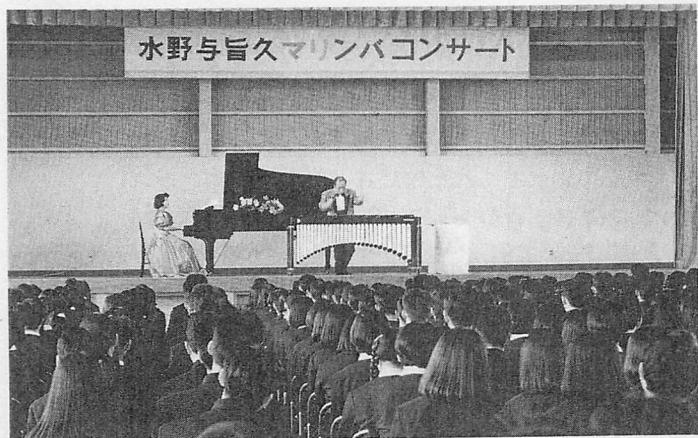
きました。

楽器の紹介など、とてもよくわかりました。また、今日演奏してくださった人達は、学校の先生や会社にお勤めされている人、中には大学生もおられ、自分の趣味がいつまでもできるということは、いいなあと思いました。演奏してくださった人は、汗びっしょりで、一生懸命してくださいってとてもうれしかったです。

聞いているうちに、小学校のころやっていた金管クラブのことが思い出されました。私もそのころは、このような場所で演奏したいと思っていました。

もし、このような演奏が聞けるチャンスがあったら、ぜひまた聞きたいです。

## 「マリンバコンサートで感じたこと」



大嶺高等学校3年 長藤 美保

勉強することが主な日課である私たちにとって、音楽に親しむと言えば、部屋でカセットやCDを聞くぐらいのものですが、今回は生の演奏を聞かせて頂けるということで、大変楽しみにしていました。私たちに、このような機会を与えて下さった水野ご夫妻に感謝しております。

さて、このコンサートはすべて素晴らしいのですが、中でも、私は、サン・サーンスの白鳥が大変印象的でした。演奏を聴いていると、白鳥がスープと湖面を滑るように泳いだり、時

にはその大きな翼をパッと開いたりする情景が眼前にくり広げられ、幻想的な気分に浸られました。中学生の時、レコード鑑賞で聞いた音楽とは比べものにならないくらいに、白鳥の1つ1つの動きがくっきりと浮かびあがりました。また、先生方の演奏される姿を見ていると、実際に音を発するのはマリンバやピアノであるのに、体全体から音が湧き起るような感じを受けました。

さらに、演奏の合間には、様々なお話をされ、大変意義深いコンサートだったと思います。特に、「音楽と美術と体育、この3教科は一生自分のためになる」とお話しになったことはよく心に残っています。今は受験も控えており、多くの科目を勉強していますが、将来ずっと自分を潤してくれるものは、やはりこの3教科だと思いました。

今回のこのコンサートは、よき思い出になると同時に、私たちの平凡な毎日にいろいろな影響を与えてくださったように思えます。また機会があれば、先生方の演奏をぜひお聞きしたいと思います。

# 〈国際交流事業〉

山口県山東省友好協定締結10周年記念

## 山口県高等学校吹奏楽団中国山東省親善訪問の記録

中村芳喜

(下関商業高等学校教諭)



演奏会



交歓会

### (1) はじめに

およそ1年間にわたってあらゆる問題を検討し、多くの課題を解決してきたにもかかわらず、なおかつ幾多の不安を抱いての中国親善訪問でした。私達の演奏が中国人達に受け入れてもらえるだろうか、楽器の運搬や借用は大丈夫か、生徒の健康管理は………数えあげればきりがありません。しかし、結果的には私達の心は、演奏会での熱狂的な拍手と数々の素晴らしい思い出で満たされています。「行かせていただいて良かった、この感動を一生大切にしたい」、団員一同本当にそう思っています。この誌面をお借り

して、今回の親善訪問を実現して下さった皆さんと、私達を誠心誠意もてなして下さった中国の皆さんに心からお礼を申し上げます。

限られた誌面ですから、詳しい報告は不可能ですので、ここでは幾つかの項目について簡単に紹介させていただきます。詳細については、私達の「親善訪問のしおり」と「感想文集」をご覧いただければ幸せます。特に感想文集には、未来を担う生徒たちがこの旅で何を得たか、その感動が生き生きと綴られています。ぜひご一読下さい。

## (2) 団の編成

団員50名は第30回山口県吹奏楽コンクールでの中国大会代表校～下松高校・防府高校・防府西高校・下関商業高校～から選抜されました。全国大会金賞の栄光に輝く下松高校単独バンドであれば、諸準備・練習の能率も良く、そして演奏もさらに素晴らしいものとなつたでしょうが、できるだけ多くの学校の生徒に国際交流の機会を与えようというご配慮であろうと思います。楽器編成のバランスを検討しながら各校の人数が決定され、それぞれの学校では学年・演奏技術（中には抽籤もありました）などを考慮してメンバーが決定されました。

引率スタッフは顧問として山田文化課長、団長として石井高文連会長、それに4校の顧問（中井・重広・矢田部・中村）が指揮者として参加し、斎藤高文連事務局長、防府高校の高橋養護教諭のご参加を得て合計8名でした。顧問・団長以下それぞれに大変な職責を担つての旅でしたが、特に、女生徒の多い団において高橋先生の存在は心強く、実際に体調を崩した生徒達もあり、先生には随分お世話になりました。

## (3) 選曲と練習会

選曲については音楽監督の中井先生が腐心され、これまでに訪中された団体からご教示いた

だくなどして効果的なプログラムが組まれました。中でも、「団結友誼行進曲」・「草原情歌」・「北京喜訊到邊寨」などの中国の曲は熱狂的な反響を呼び起しました。練習は4校が山口県の東・西・中央と散在しているため、わずかな回数しか組むことができません。下松・防府・防府西の各校で1回ずつ、徳地の少年自然の家での1泊2日の合宿、そして、山口県婦人会館での結団式後の5回でした。しかも、指揮者陣は練習と平行して準備会議に追われますから、実質的な練習時間は限られたものでした。しかし、さすがに山口県を代表するバンドのメンバーだけあって、わずか数回の練習で10数曲のレパートリーを次々に完成していました。そして、短時間ながら密度の濃い練習を通して、これまでライバルであった生徒たちがうち解け、心をあわせて音楽に集中していく姿にこの団の成果が如実に現れていたように思われます。

なお、練習会では音楽のみならず「中国語講座」・「日中近現代史講座」も開講され、友好親善の実をあげるための努力が積み重ねられました。

## (4) 演奏会

中国での公演は2回。8月20日(木)に济南市の山東劇院、翌21日(金)に泰山影劇院において



それぞれ開催されました。いずれも満員の聴衆で埋め尽くされ、大盛況でしたが、特に2日目には初日の演奏の反響が広まり、整理券を求めての問い合わせが殺到、さらに会場に入場できずに帰られたお客様も多かったということです。

公演の様子を中井先生の文章をお借りしてご紹介しましょう。

～「中日両国国歌を吹奏いたします」。すらりと背の高い山東歌舞団の美人司会者の第一声に、全指定満席の会場は波を打って立ち上がった。トランペットのファンファーレ風旋律に続いて、軽快かつ勇壮な中国国歌が会場一杯に鳴り渡った。義勇軍行進曲として歌い継がれてきた曲を1982年に中華人民共和国国歌として復活制定したものである。万雷の拍手を受けて「君が代」が続く。異国で聞く「君が代」は強く私の胸を打つ、今中国公演のこの時がやってきたとの思いがゆるやかな旋律の高揚と共に自らを奮い立たせた。(中略)国歌に続く「團結友誼行進曲」の演奏に入るやいなや、会場は突如として割れんばかりの拍手の渦と化した。緊張漂うステージも、この時ばかりに調子を上げてこれに応え、まさに演奏者と会場が一体となった感動の場面が繰り広げられた。(中略)90分のプログラムもあっという間に過ぎていた。最終曲「北京喜訊到辺塞」に至っては、待望の曲の到来とばかりに観客は興奮の極致に達して鳴りやまぬ拍手が会場にこだました。最終アンコール「幸せなら手をたたこう」では、ついに現地の学生が舞台に踊り出て、日本の生徒と互いに肩をたたきあ

って、日中の合体ステージを繰り広げた。～

#### (4) おわりに

今回の親善訪問で心に残ったことは数えきれないほど沢山あります。山水画の世界そのままの仙境、泰山(歴代の中国皇帝が、そして孔子もこの山に立ちました)、明・清王朝の栄華を伝え、ラスト・エンペラーの舞台にもなった紫禁城、月から見える唯一の建造物といわれる万里の長城………いずれも忘れ難い風景です。また、パトカーの先導までつけて下さり、「日本人せっかちね」と笑いながらも私達を精一杯もてなして下さった中国のスタッフの皆さん的心遣い。生徒同士の交歓会での身振り手振りを交えた筆談と、たどたどしい英語のやりとり(中国の高校生は達者でした)、そして、抱き合い涙を流しながら別れを惜しむ彼らの姿。さらに中国の子供達の明るく輝かしい表情は、日本の子供達がいつしか失ったものを思い出させてくれました。町のあちこちに見られる人口抑制の看板も興味深いものでした。

こうした全ての経験が、今回参加した団員一人一人の心にしっかりと焼き付き、やがて彼らの手によって新しい日中友好の歴史が開かれる事を期待して止みません。



表敬訪問(山東省副省長)



山東省雜技団と

# 第7回全国高等学校文芸コンクール都道府県別応募状況一覧

最終版

区分	学校数	小説	評論・研究	詩	短歌	俳句	文芸部誌	応募点数	
1 北海道	1	4			3(300)	9(534)		16 (838)	
2 青森	30	3		50(226)	60(1475)	141(1794)	2	256 (3500)	
3 岩手	45	12(93)	2(8)	30(1753)	221(1860)	133(4271)	7(8)	405 (7993)	
4 宮城	2	1		3				4	
5 秋田	12	2(21)		13(78)	27(36)	33(42)	1	76 (178)	
6 山形	4	4		13	6		2	25	
7 福島	5			6			3	9	
8 茨城	2	1					1	2	
9 栃木	6	6		42			1	49	
10 群馬	7	7(9)		21(88)	11(126)	20(80)	2	61 (305)	
11 埼玉	4	2		22	89		2	115	
12 千葉	2	5		10	30	48		93	
13 東京	12	12	1	20	27	58	2	120	
14 神奈川	3	1		2			1	4	
15 山梨	8	4(34)		4(211)	4(233)	10(560)	1	23 (1039)	
16 新潟	5	4	1	8	57	9	3	82	
17 富山	5	5		18	8		2	33	
18 石川	8	10	1	28	43	129		211	
19 福井	9	4(27)		4(128)	12(144)	9(114)		29 (413)	
20 長野	★								
21 岐阜	7	6		13	3	3	3	28	
22 静岡	5	1		2	3		2	8	
23 愛知	6	7		21				28	
24 三重	4	4		7	3		1	15	
25 滋賀	1						1	1	
26 京都	1			3				3	
27 大阪	6	4		24	3	9	2	42	
28 兵庫	3	2		21	3	25	2	53	
29 奈良	3	2		6		87	2	97	
30 和歌山	3			35			2	37	
31 鳥取	★								
32 島根	3	3		7				10	
33 岡山	6	3		6			2	11	
34 広島	3		1	9	10	11	1	32	
35 山口	14	15		25		1	7	48	
36 徳島	★								
37 香川	4	3		5			1	9	
38 愛媛	2	2		10				12	
39 高知	★								
40 福岡	11	11	1	66	34	52	2	166	
41 佐賀	2			2			1	3	
42 長崎	2			11	3	3	1	18	
43 熊本	5	2		11	3	6		22	
44 大分	14	5(35)		27(100)	43(112)	35		110 (282)	
45 宮崎	★								
46 鹿児島	1	1						1	
47 沖縄	6	7		15	18	390	1	431	
	合計	校 282	165(350)	7(13)	620(3055)	724(4629)	1221(8261)	61(62)	2798 (16370) 点

★印 応募者無し ( )は県又は学校段階での応募数を含めた数

## 部門別応募状況一覧

区分	応募点数 点	応募者数 人	公私別		学年別			男女別	
			公	私	1	2	3	男	女
小説	165 (158)	162 (158)	130	32	40	52	70	43	119
文芸評論 文芸研究	7 (6)	7 (6)	6	1	0	4	共1 2	1	共1 5
詩	620 (787)	412 (590)	300	112	101	123	188	104	308
短歌	724 (662)	308 (319)	229	79	47	96	4年-2 163	64	244
俳句	1221 (853)	581 (454)	505	76	151	191	4年-2 237	175	406
文芸部誌	61 (67)	61 (68)	54	7					
合計	点 2,798 (2,533)	人 1,531 (1,595)	1,224	307	339	466	665	387	1,083

( ) 前回

- 第1回(昭和61年度) 17都道府県 110校 890点 630人  
 第2回(昭和62年度) 30都道府県 202校 1,977点 1,297人  
 第3回(昭和63年度) 35都道府県 210校 1,830点 1,235人  
 第4回(平成元年度) 39都道府県 235校 1,990点 1,347人  
 第5回(平成2年度) 41都道府県 240校 2,112点 1,286人  
 第6回(平成3年度) 41都道府県 272校 2,533点 1,595人 総点数 15,842点  
 第7回(平成4年度) 42都道府県 282校 2,798点 1,531人 総点数 16,370点

## 入賞作品数一覧

区分	応募点数	応募者数	最優秀賞	優秀賞	優良賞	入選	合計
小説	165 総点数 350	162	◎1	6	8	10	25
文芸評論 文芸研究	7 総点数 13	7			1	0	1
詩	620 総点数 3,055	412	1	5	10	15	31
短歌	724 総点数 4,629	308	◎1	5	11	16	33
俳句	1221 総点数 8,261	581	1	5	10	16	32
文芸部誌	61 総点数 62	61	◎1	3	5	7	16
合計	点 2,798 総点数 16,370	人 1,531	5	24	45	64	138

◎印 文部大臣奨励賞

総点数は県又は学校段階での応募数を含めた数

## 文芸コンクール受賞作品(山口県)

小説部門	最優秀賞 (文部大臣奨励賞)	県立下松高等学校 3年 弘中 典子	『フェアウェル』
	優良賞	県立厚狭高等学校 1年 天野健太郎	『尺八は生きている』
		県立防府高等学校 3年 大橋 寿美	『足音』
詩部門	優秀賞	県立下関工業高等学校 2年 曽根 祐介	『絶佳』

## 平成4年度 山口県高等学校文化連盟事業報告

月	日	事業	会場
4	10 24	会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山口中央高校 山口中央高校
5	7 8 27 28	県総文祭(総合開会式・音楽4部門)第1回実行委員会 高文連評議員会 全国高等学校文化連盟評議員会	徳山高校 防府市都東京高 西高校
6	15 16 19 20~21 26~ 7/6 28	山口県交響楽団演奏会 山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・パントワーリング) 「山口県高等学校吹奏楽団」視察団訪中 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠剣詩舞)	徳山北高校 安下庄高校 徳山市文化会館 徳山市文化会館 中国(済南市、泰安市、北京) 萩市民会館
7	14	平成3年度「高文連」発行	
8	3~7 4 3~7 18~24	全国高校総合文化祭 [山口県・山東省友好協定締結10周年記念事業] 「山口県高等学校吹奏楽団」訪中	沖縄県(那覇市中心) 沖縄県那覇市 沖縄県(那覇市中心) 中国(济南、泰安、北京)
10	9 9 13 15 25	マリンバ演奏会 マリンバ演奏会 マリンバ演奏会 県高校総合文化祭(閉幕)	徳山高校(定) 大嶺高校 下関女短付属高校 岡山市チサンホテル岡山 下関西高校
11	31~1 16 7 12 12 13~15 18 21	県高校総合文化祭(演劇) 巡回演劇 のんた 巡回演劇 海峡座 巡回演劇 のんた 県高校総合文化祭(美術工芸、書道、写真) 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇 海峡座	下関文化会館 山口中央高校 徳山工業高校 小野田工業高校 柳井工業高校 ときわ湖水ホール 美祢高校 萩工業高校
12	16	平成4年度「高文連会報」発行	
1	21~22 24	全国高等学校文化連盟研究大会 全国高校文化連盟囲碁大会	長崎市 沖縄県那覇市
2	9 12 24	全国高等学校文化連盟理事会 第2回高文連理事長会 第2回高文連企画運営委員会	東京都江戸川区こまどりナース 山口中央高校 山口中央高校
3	25	第12回器楽管弦楽スプリングコンサート	山口市民会館
【委員会等】 県高校総合文化祭準備委員会			
総合開会式・音楽関係4部門(徳山高校) 展示関係3部門(宇部中央高校) 日本音楽、吟詠剣詩舞部門(萩高校) 演劇部門(下関商業高校) 囲碁部門(下関西高校)			
各専門部会 ..... 部長会議を中心開催 各専門部研修会 ..... 県下各地において開催 山東省派遣「山口県高等学校吹奏楽団」 実行委員会(5回)・合同練習会(4回)・結団式 県高校総合文化祭テーマ・全国高等学校文芸コンクール作品・各種ポスター等の公募 県高校総合文化祭ポスター作成 各種刊行物等の発送			
【その他】			

山口県高等学校文化連盟

### 【共催】山口県学校吟剣詩舞道大会

〔山口県芸術祭〕山口県合唱コンクール

[山口県芸術祭] 山口県吹奏楽コンクール

〔山口県芸術祭〕山口県吹奏楽コンクール  
コンサート山口県大会

## アシサシブルヨシナスト田口繁人芸 中国地区高等学校演劇大会

中国地区高等学校演剧大会

### 【後援】 アンサンブルコンテスト中国支部大会

#### マーチングコンテスト フェスティバル山口県大会

# 平成4年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

[収入の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
繰越金	1,406,196	1,406,196	0	
会費	10,921,000	10,803,350	△ 117,650	全日制(1、2年) 200円 (3年) 100円 定時制 50円 盲・聾・養 50円
学校負担金	163,000	163,000	0	1,630学級×100円
補助金	10,260,000 (内訳) 2,200,000 7,990,000 70,000	10,268,300 (内訳) 2,200,000 7,989,500 78,800	8,300 (内訳) 0 △ 500 8,800	県総文祭県補助金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
雑収入	10,000	10,606	606	利息
合計	22,760,196	22,651,452	△ 108,744	

[支出の部]

区分	予算額	決算額	増減(△減)	摘要
[運営費]	800,000	796,927	3,073	
事務用品費	(内訳) 300,000	(内訳) 303,319	(内訳) △ 3,319	事務用品等
通信費	330,000	324,190	5,810	電話、郵便、運送費等
分担金	170,000	169,418	582	全国高文連分担金
[会議費]	1,738,000	1,554,241	183,759	
	(内訳) 380,000	(内訳) 369,149	(内訳) 10,851	企画運営、専門部理事長会議等
	429,000	314,240	114,760	全国高文連理事長会等
	850,000	810,600	39,400	事務局旅費
	70,000	54,412	15,588	研究大会旅費等
	9,000	5,840	3,160	監査旅費
[事業費]	20,022,900	19,312,020	710,880	
県総文	(内訳) 5,782,500	(内訳) 5,791,594	(内訳) △ 9,094	総合開会式、各部門大会開催費
全総文	8,950,000	8,804,528	145,472	全国大会旅費
自主事業	1,730,400	1,645,082	85,318	公演(演劇4、山響4、マリンバ3)
国際交流	600,000	607,791	△ 7,791	山口県高等学校吹奏楽団山東省派遣費
専門部会費	1,860,000	1,362,163	497,837	各専門部研修費・通信費
大会補助金	100,000	100,412	△ 412	演劇中国大会
印刷費	1,000,000	1,000,450	△ 450	高文連会報、集録、ポスター等
[予備費]	199,296	61,605	137,691	
合計	22,760,196	21,724,793	1,035,403	

(収入) 22,651,452円 - (支出) 21,724,793円 = (繰越) 926,659円

上記の通り相違ありません。

平成5年4月16日

監事 藏岡 武史

監事 浦川 幸弘

## 平成5年度 山口県高等学校文化連盟事業計画

月	日	事 業	会 場
4	16 27	会計監査 第1回高文連企画運営委員会	山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校
5	6 7 25	山口県交響楽団演奏会  高文連評議員会 全国高等学校文化連盟評議員会	香 川 高 校 德 山 市 東京都 こまばエミナース
6	18 19~20 24 27 (下旬)	山口県交響楽団演奏会 県高校総合文化祭総合開会式 県高校総合文化祭(器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・パントワーリング) 巡回演劇「劇団のんた」 県高校総合文化祭(日本音楽、吟詠劍詩舞) 平成4年度「高文連」発行	坂 上 高 校 山 口 市 民 会 館 山 口 市 民 会 館
8	4~ 8 5 5~ 8 21~22 28~29	全国高校総合文化祭  全国高等学校文化連盟拡大理事会 全国高等学校文化連盟各専門部会  県高校総合文化祭(美術工芸、書道、写真) 第4回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	埼 玉 県 浦 和 市 他 埼 玉 県 埼 玉 県 山 口 市 民 会 館 東京都 国立劇場
9	20 22 25	水野与旨久マリンバ演奏会 水野与旨久マリンバ演奏会 水野与旨久マリンバ演奏会	響 高 校 宇 部 養 護 学 校 徳 山 商 業 高 校
10	1 8 (上旬) 24 25 26 30~31	水野与旨久マリンバ演奏会 巡回演劇「宇部芸術座」  県高校総合文化祭(団碁) 山口県交響楽団演奏会 巡回演劇「宇部芸術座」 県高校総合文化祭(演劇)	中 国 地 区 高 文 連 関 係 者 (会長・事務局長・行政) 合同会議  日 置 農 業 高 校 新 南 阳 高 校 広 島 市 萩 高 校 中村好子高校山口農業高校 大 津 高 校 山 口 南 総 合 セン ター
11	(上旬) 10	巡回演劇「宇部芸術座」	山 口 中 央 高 校 下 関 第 一 高 校
12	(中旬)	平成4年度「高文連会報」発行	
1	20~21 22~23	全国高校文化連盟団体大会	石 川 県 埼 玉 県
2	14 (上旬) (下旬)		東 京 都 青 山 会 館 山 口 中 央 高 校 山 口 中 央 高 校
3	(下旬)	第13回器楽・管弦楽スプリングコンサート	防 府 市 公 会 堂
【その他】 県高校総合文化祭準備(実行)委員会 総合開会式・音楽関係4部門(山口高校) 展示関係3部門(西京高校) 日本音楽、吟詠劍詩舞部門(岩国高校) 演劇部門(山口県鴻城高校) 団体部門(萩高校)			
各専門部会 ..... 部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会 ..... 県下各地において開催予定			

# 平成5年度 山口県高等学校文化連盟会計予算書

[収入の部]

区分	予算額	前年度予算額	増減(△減)	摘要
繰越金	926,659	1,406,196	△ 479,537	
会費	12,360,000	10,921,000	1,439,000	全日制 200円×61,500 定時制・盲・聾・養 50円×1,200
学校負担金	158,000	163,000	△ 5,000	1,580学級×100円
補助金	7,617,500 (内訳) 2,200,000 5,347,500 70,000	10,260,000 (内訳) 2,200,000 7,990,000 70,000	0 △ 2,642,500 0	県総文祭県補助金 全総文祭県補助金 全国高文連補助金
雑収入	10,000	10,000	0	利息
合計	21,072,159	22,760,196	△ 1,688,037	

[支出の部]

区分	予算額	前年度予算額	増減(△減)	摘要
[運営費] 事務用品費 通信費 分担金	810,000 (内訳) 300,000 330,000 180,000	800,000 (内訳) 300,000 330,000 170,000	0 0 10,000	事務用品等 電話、郵便、運送料等 全国高文連分担金17万円;中国高文連分担金1万円
[会議費]	2,009,000 (内訳) 400,000 610,000 920,000 9,000 70,000	1,738,000 (内訳) 380,000 429,000 850,000 9,000 70,000	20,000 181,000 70,000 0 0	企画運営委員会、専門部理事長会等 全国高文連理事長会等 事務局旅費 監査旅費 研究大会旅費等
[事業費] 県総文祭 全総文祭 自主事業 国際交流 大会補助金 専門部会費 印刷費	16,666,000 (内訳) 5,888,000 6,340,000 1,758,000 0 100,000 1,480,000 1,100,000	20,022,900 (内訳) 5,782,500 8,950,000 1,730,400 600,000 100,000 1,860,000 1,000,000	△ 105,500 △ 2,610,000 27,600 △ 600,000 0 △ 380,000 100,000	総合開会式、各部門大会開催費(別紙) 生徒旅費535万円、引率教員旅費99万円 12公演(演劇4、山響4、マリンバ4) 研修費12万円×11部門、通信費等16万円 高文連集録、高文連会報、県総文祭ポスター、賞状
[予備費]	187,159	199,296	△ 12,137	
[調整基金]	1,400,000	0	1,400,000	
合計	21,072,159	22,760,196	△ 1,688,037	

# 山口県高等学校文化連盟規約

## 第1章 総 則

### (名称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

### (事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市中園町2番8号山口中央高等学校に置く。

### (目的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

### (事業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校等による文化行事の開催に関する事業
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、観賞会、講演会等の開催に関する事業
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業

### (組織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校並びに高等部を設置している盲学校、ろう学校及び養護学校をもって組織する。

2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、部門別の専門部を置く。

2 専門部は、当分の間、演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントーリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁等の各部門とする。

## 第2章 役 員

### (役員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| (1) 会長 1人                      | (4) 支部長 7人                  |
| (2) 副会長 若干人                    | (5) 専門部会長 11人               |
| (3) 評議員 94人以上<br>(会長及び副会長を含む。) | (6) 専門部理事長 11人<br>(7) 監事 2人 |

### (役員の選出)

第8条 役員の選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事は、評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。

2 役員の兼任は妨げない。

### (役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し、執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。  
2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は、前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げるとおりとし、会長が必要に応じて、これを招集する。

(1) 評議員会 (3) 理事長会

(2) 企画運営委員会

2 会議の議長は、会長がこれに当たる。

3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。

4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。

5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 規約の制定及び改廃に関する事項 (3) その他連盟の運営に係る重要事項

(2) 予算及び決算に関する事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 評議員から委任された事項 (3) その他連盟の運営に係る軽易な事項

(2) 会務の運営及び執行に関する事項

2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。

3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。

4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

(1) 企画運営委員会から委任された事項 (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の分担金、県内の高等学校等の生徒の会費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の收支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第17条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会計経理)

第18条 この連盟の会計経理の手続については、企画運営委員会の議決を経て別に定める。

第5章 事 務 局

(事務局)

第19条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運営)

第20条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第6章 雜 則

第21条 この連盟の規約の施工について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、平成元年4月1日から施行する。

## (山口県高等学校文化連盟諸規程)

### 山口県高等学校文化連盟会計規程

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第3条 会長は、收支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え、全ての経理内容を記入するものとする。
- 第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、会費を納入するものとする。

#### 会費内訳

各高等学校生徒一人当たり1年に	(全日制生徒)	200円
	(定時制、盲、聾、養護学校高等部生徒)	50円
各学校負担金(定時制、盲学校、聾学校、及び養護学校は除く)		
学級数×100円		

- 第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

#### 附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

### 山口県高等学校文化連盟事務局規程

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
- (1) 事務局長  
(2) 事務局員 ア 総務係  
イ 庶務係  
ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局員総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書・調査研究に関する事項を分掌する。
- 第5条 事務局員庶務係は、事務局長の命を受け、庶務に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

#### 附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

## 山口県高等学校文化連盟表彰規程

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規定を次のように定める。

### (表彰の種類)

第2条 本規定に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの。

### (文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数300名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

### (その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの)

#### (優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、11部門において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

### (功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。

### (優秀指導者賞)

第11条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、11部門において、全国大会等で優秀賞を授与され、且つ、長年にわたり部の指導に当たってきた者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決定する。本賞の授与は県総文の総合開会式で行うことを原則とする。

### 附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

# 平成4年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

職名	氏名	支部・部門	所属校
会長 副会長	石竹秀和 竹林弘夫 田正陸 田亮		山口中央高校 岩国高校 下関高校 山口県鴻城
支部長 // (5年1月~)	竹藤陸夫 林本慎雄 庄幸宏 相和宏 石和悟 山寛夫 三木	岩柳國井 柳山山防 德山山宇 德山宇下 山防閥北 柳山字下 木長	岩国井高 柳山高高 德山高高 德山口高 山宇下高 南高
専門部会長	戸生更 浦三 村三 河多 谷宇 部下 野古 中十 京下 田五 下藤 本河 下藤 小	演劇部 器樂部 合唱部 吹奏樂部 マントン部 一日音楽部 吟詠詩部 歌舞劇部 美術工芸部 書写団	厚狭高 下南高 宇中央高 防府高 宇女子高 中村女子高 下工業高 山高 防柳高 柳下高 井西高
専門部理事長	藤三 永真 尾忠 広綾 村昭 野慈 野靖 中靖 中雅 師雄 荒俊 藤明 瀬秀	演劇部 器樂部 合唱部 吹奏樂部 マントン部 一日音楽部 吟詠詩部 歌舞劇部 美術工芸部 書写団	厚狭高 下南高 宇中央高 防府高 宇女子高 中村女子高 下工業高 山高 防柳高 柳下高 井西高
監事	蔵武 浦幸 岡史 川弘		防府商業高校 宇部商業高校
事務局長 事務局 庶務 庶務 會務	斎真 甲久 藤真 田俊 永康 松立		山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校 山口中央高校

## 平成5年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧

# 全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定  
向 川 栄 美 作詞  
乗 松 美 紀 作曲



1. てをのばせばほら きっとだれかがささてくれる  
2. よびかければほら きっとだれかがこたえてくれる



みーわたせ一ぱ ほらなかまがいつでもそばにいるきみ  
こころをひらけぱ ほらなかまはいつでもまっているきみ



ははひとりじやない さああるさあはきだそこう



ぼくらのぶんかを つくるくためーに  
ぼくらのぶんかを きづくためーに

全国高文連の歌  
一、手を伸ばせばほら  
きっと誰かが支えてくれる  
仲間がいつでもそばにいる  
君は一人じやない  
見渡せばほら

二、呼びかければほら  
きっと誰かが応えてくれる  
心を開けばほら  
仲間はいつでも待っている  
君は一人じやない  
さあ歩きだそう  
僕等の文化を創るために

さあ翔こう  
僕等の文化を築くために

## 山口県高等学校文化連盟集録「高文連」編集委員

### (各 部 門)

合 唱	中 尾 綾 子 (県立宇部中央高等学校)
マーチングバンド・ バトントワーリング	花 村 慈 照 (宇部女子高等学校)
器楽・管弦楽	松 永 忠 雄 (県立下関南高等学校)
吹 奏 楽	重 広 昭 雄 (県立防府高等学校)
演 劇	三 藤 真 人 (県立厚狭高等学校)
日 本 音 楽	中 野 靖 子 (中村女子高等学校)
吟詠剣詩舞	中 野 雅 行 (県立下関工業高等学校)
美 術・工 芸	師 井 俊 夫 (県立山口高等学校)
書 道	荒 瀬 宏 (県立防府高等学校)
写 真	藤 川 明 徳 (県立柳井高等学校)
囲 棋	伊 藤 秀 男 (県立下関西高等学校)

### (事 務 局 )

事 務 局 長	斎 藤 真 久 (県立山口中央高等学校)
総 務	甲 田 俊 夫 ( " )
庶 務	松 永 康 夫 ( " )
会 計	中 邑 立 夫 ( " )

平成4年度  
山口県高等学校文化連盟集録  
「高 文 連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局  
⑦753 山口市中園町2-8  
山口県立山口中央高等学校内  
電話0839-32-0818・FAX  
印 刷 A&C-CREATE co.,ltd. 電話0839-25-0757

